

令和4年度
親子平和大使広島派遣事業
平和大使長崎派遣事業
報告書

つむいでいこう

とわ
永遠までつづく

平和の糸

松 戸 市

～ 世界平和都市宣言 ～

我が国は、世界で唯一の被爆国である。

何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。

しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。

かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

・ World Peace City Declaration

[英語]

March 4, 1985

In the past, our country has experienced the sadness from an Atom Bomb explosion.

This makes our nation determined that history will not be repeated.

All of us yearn for peace, continue making an effort to create peace, and wish that we all can live in a peaceful environment in the future.

However, presently around the world, international affairs are becoming increasingly tense and cause our citizens great concern.

In response to the present turmoil across the world, Matsudo City now more than ever, willfully observe the peaceful spirit that is the fundamental philosophy of the Japanese Constitution.

We will endeavor to maintain nationwide peace, comply with the three anti-nuclear principles and possess the desire to abolish all nuclear weapons and the accomplishment of permanent peace throughout the world.

Therefore, we now declare our city as the "World Peace City".

City of Matsudo

・ 世界平和都市宣言

[中国語]

日本是世界唯一的核弹受难国。

我们热爱和平、为和平而奋斗、切望一个和平的生活环境。

但是、当今国际关系仍然紧张、市民深感忧虑。面对动荡的世界、松戸市郑重宣告本市将遵循日本国宪法基本理念、

高扬和平精神、为保障和平而尽力、坚持非核三原则、为在地球上废除所有核武器、

建立一个永久和平的世界而积极贡献力量。

目 次

親子平和大使広島派遣事業

事業概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	1
平和大使名簿、令和4年度親子平和大使広島派遣結団式	・・・・・・・・	2
広島市訪問	・・・・・・・・・・・・・・・・	3
平和の集い	・・・・・・・・・・・・・・・・	4
平和大使の報告		
「親子平和大使に参加して」	かつやま ゆきこ 勝山 雪子	・・・・・・・・ 5
「親子平和大使に参加して」	かつやま ふみこ 勝山 文子	・・・・・・・・ 7
「戦争・原爆と幸せとは」	みやうち むつみ みやうち ちか 宮内 陸海、宮内 知佳	・・・・・・・・ 9
「広島を訪れて」	やまだ いろは やまだ ひよ 山田 彩羽、山田 妃代	・・・・・・・・ 11
「親子平和大使として広島を訪れて」	おおたに りんこ おおたに ともみ 大谷 倫子、大谷 知美	・・・・・・・・ 14
「戦争をなくそう！平和に暮らそう！」	なかの ひろ なかの ようこ 中野 宙、中野 葉子	・・・・・・・・ 16
広島平和宣言（令和4年8月6日）	・・・・・・・・・・・・・・・・	18

平和大使長崎派遣事業

平和大使長崎派遣事業にあたって	・・・・・・・・・・・・・・・・	19
平和大使の役割	・・・・・・・・・・・・・・・・	20
平和大使長崎派遣募集要項	・・・・・・・・・・・・・・・・	21
平和大使名簿	・・・・・・・・・・・・・・・・	23
平和大使長崎派遣行程	・・・・・・・・・・・・・・・・	24
平和大使長崎派遣帰庁報告会	・・・・・・・・・・・・・・・・	33
平和の集い	・・・・・・・・・・・・・・・・	34

平和大使の報告

「私達が伝えていくべきことは何か」	たなか みやび 田中 雅	35
「長崎平和大使で感じたこと」	まつもと やまと 松本 大和	38
「長崎で学んだこと」	たかはし たくみ 高橋 拓実	41
「平和大使として伝えたいこと」	にしやま みなみ 西山 みなみ	43
「平和への願い」	たけだ まお 武田 真央	46
「被爆の実相と原爆のおそろしさ」	べにた すみれ 紅田 純怜	50
「長崎を最後の被爆地に」	くにさき みわこ 國崎 美和子	53
「長崎で学んだ事」	ふくい けん 福井 健人	56
「次の世代への「架け橋」に」	うすい あやね 臼井 絢音	60
「長崎の傷跡」	やまぐち ゆうま 山口 侑馬	64
「戦争への価値観」	させ れな 佐瀬 怜奈	67
「長崎派遣を終えて」	あべ しょうへい 阿部 尚平	72
「長崎派遣を終えて」	なかやま かの 中山 香乃	75
「平和とはなにか」	いわた やまと 岩田 大和	78
「未来と平和をつなぐ」	よだ ちひろ 依田 千尋	81
「当たり前が続くように」	たけ まゆか 武 茉友花	85
「長崎派遣を終えて」	おかだ はやと 岡田 隼	88
「平和大使として学んだこと」	やまおか ゆりこ 山岡 友梨子	91
「平和な未来、今の私たちにできること」	ふじわら ほのか 藤原 穂華	95
「平和の尊さと原爆や戦争の恐ろしさ」	さとう かずと 佐藤 一翔	100
派遣後の活動について		104
新聞掲載記事		106
長崎平和宣言（令和4年8月9日）		107
歴代平和大使名簿		112



令和4年度

親子平和大使広島派遣事業



～事業目的～

親子で、被爆地や被爆者に接することで、原爆の実相や平和の尊さを共に考えていただき、感じ・学んだものを家族や同級生、近隣の方など多くの方に伝えていただくこと。

～ 親子平和大使広島派遣募集要項 ～

【 平和大使とは 】

- ・「平和大使」とは、松戸市の世界平和都市宣言に基づき、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて、知識を深め、そこで学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことが期待される人です。

【 対象 】

- ・市内小学校に在学する児童とその保護者で、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて学ぶ意欲があり、日程に参加できる人を対象とします。(ただし、保護者不在やその他やむをえない事情がある場合は、同居する成人でも応募可能です。)

【 定員 】

- ・親子5組 10名 (申込者が定員を超える場合は抽選とします。)
- 同行者 : 添乗員1名

【 費用 】

- ・市の負担：東京駅から広島市までの往復交通運賃、宿泊代、広島市での移動運賃、8/23の夕食、8/24の朝食
- ・自己負担：東京駅までの往復、報告会会場(市内)までの交通費、8/23、8/24の昼食など

【 申込方法 】

- ・参加申込用紙に必要事項を記入して、任意の封筒に入れ学校に提出してください。

【 提出期限 】

- ・令和4年6月20日(月)までに学校へ提出

～ 親子平和大使広島派遣抽選会～

令和4年7月5日(火) 午後6時から オンラインで実施

定員5組に対して57組の親子からご応募いただきました。

応募いただいた方が抽選の様を確認できるようにオンラインで実施いたしました。

～ 平和大使名簿 ～

令和4年度 親子平和大使広島派遣 参加決定者一覧

学校名	児童氏名	保護者氏名
中部小学校	かつやま ゆきこ 勝山 雪子	かつやま ふみこ 勝山 文子
常盤平第二小学校	みやうち むつみ 宮内 睦海	みやうち ちか 宮内 知佳
松飛台小学校	やまだ いろは 山田 彩羽	やまだ ひよ 山田 妃代
六実第二小学校	おおたに りんこ 大谷 倫子	おおたに ともみ 大谷 知美
大橋小学校	なかの ひろ 中野 宙	なかの ようこ 中野 葉子

～ 令和4年度 親子平和大使広島派遣結団式～

結団式では応募総数57組から抽選で選ばれた親子平和大使5組10名に任命証が交付され、一人ひとり大使としての抱負を発表しました。



7月18日（月祝） 市役所議会棟3階特別委員会室にて

～広島市訪問～（8月23日から8月24日まで）

※ 現地の状況により、見学する施設等が変更になる場合がございます。

日	令和4年8月23日（火）【1日目】	令和4年8月24日（水）【2日目】
行程	9:00 東京駅に集合 【集合場所】 中央地下1階コンコース 八重洲地下中央改札内「銀の鈴広場」	7:00 朝食後（ホテル） ホテルロビーに集合
	9:30 東京駅出発 （※昼食は各自で用意）	8:00 平和記念公園内フィールドワーク ・広島平和記念資料館見学 ・国立広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 ・その他公園内及び周辺で開催している平和イベント等の見学
	13:23 広島駅到着	11:45 広島駅へ出発
	13:30 広島市平和記念公園に移動 ※ 途中、宿泊ホテルに荷物を預ける。	12:15 広島駅到着
	14:00 広島市平和記念公園到着 ※千羽鶴を献呈（希望者のみ）	12:42 広島駅出発 （※昼食は各自で用意）
	14:30 平和案内人による施設案内 本川小学校平和資料館見学	16:36 東京駅到着
	17:15 宿泊ホテル到着	16:50 解散
	18:00 夕食 食事終了後に解散	

23日は平和案内人による説明を聞きながら、広島平和公園内にある遺構などを見学しました。また、市民の方から寄贈いただいた千羽鶴を献呈しました。



24日は広島平和記念資料館や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの市施設を見学しました。前日の平和案内人の方の説明を思い浮かべながら、より深めて見学することができました。



～ 平和の集い ～

11月27日(日)

◆親子平和大使広島派遣報告会(市民劇場にて)

「平和の集い」の中で、大使の役割を果たすべく、広島派遣を通して学んだことや感じたことを、市民の皆様へ報告しました。



平和大使の報告



中部小学校 勝山 雪子

親子平和大使に参加して

中部小学校

勝山 雪子

8月23日 - 24日に広島に松戸市の親子平和大使として行きました。

その中で、私が一番驚いたのが前回の核実験から、まだ1年経っていないという事です。8月24日の時点から42日しか経っていません。最近にも核実験が行われているという事が、とても恐ろしいです。

今、世界には1万5千発もの原爆があるとされています。この調子では、いつ核戦争になってもおかしくはない、と思えてきます。

また、ついこの間にNP T (核拡散防止条約) での最終文書が採択できずに決裂してしまいました。

ただいまウクライナでは、ロシアが侵略をしています。ロシアはウクライナに対しては核兵器を使わないと言っていますが、はたし

て守られるの下でしょうか。それともたにか、
作戦でもあるのでしょうか。

なんにしても、戦争はやめて欲しいです。
戦争をすればどちらも無傷ではいきません。
この事から、戦争は絶対にしてはいけない、
全くもって意味のない事だと思いました。

中部小学校 勝山 文子（保護者）

親子平和大使に参加して

中部小学校

勝山 文子

7年前、職場で次女の出産予定日が8月9日と伝えると福岡出身の人は、長崎に原爆が投下された日と気にしていました。松戸に住んでいると気にせず、土地によつての意識の違いを感じました。そして、福岡の人間は当日の第一目標が小倉であった事を聞かされながら育つそうです。

この夏、松戸市の親子平和大使として6年生の長女と広島を訪れました。現地を歩き、資料館を見学した事で、遠い土地と昔の出来事と感じていた事が、展示品や証言を見聞きするうちに、自分の事としてとらえるようになりました。戦争が続く限り、松戸で過ごす私たちも核兵器の脅威にさらされている事実を知りました。

次女は8月2日に生まれ、今は小学1年生

です。「せ」のつく言葉を書く授業のプリントに「せんそう」と書きました。ウクライナの戦争のニュースを見ていて、戦争が日常になっているのです。次女とも広島を訪れたいと思います。その日は、今日よりも平和であることを願っています。

戦争・原爆と幸せとは

常盤平第二小学校

宮内 睦海

宮内 知佳

私が広島に行、て、一番衝撃だ、たことは
広島平和記念資料館で見た光景だ。特に原爆
投下後の広島を写した写真だ。異形の爪や体
内から取り出されたガラス片、ケロイド、衰
弱した人の姿、どれも恐しいと思、てはいけ
ないのだらうけれど、恐しか、た。

後で母とこのような会話をした。

「お母さん、もしも私がさ、街であの写真み
たいな人を見たら『絶対差別しない』っ、て言
いきれる気がしないよ」

と、私は言、た。母は

「そうだね。改めて自分の醜さを見せつけら
れた気がするよ」

と、言、た。

私は全く差別をしないということは不可能
だと思、う。これはとても醜いことだが、仕方

がないことだ。けれども、なるべく差別がないようにすることはできるのではないだろうか、とも思った。

例えば、戦争や原爆がなければ差別は少なくなるはずだ。

戦争や原爆によって体に消えない傷を負い、差別された人もいる。また、体に傷がなくとも、『あいつは原爆を見た奴だぞ』とか『親族が原爆症の奴だぞ』など言われ、差別された人もいる。

私は差別は皆、したくてしているわけではないと思う。皆、怖くて、恐しいからしているのだ。私は、戦争や原爆がない（怖くて恐しいことのない）世界になれば、差別が今よりも少なくなり、今よりも平和で幸せな世界になると思う。

私はこのことを学校の皆や、色々な人に知ってほしい。そして戦争や原爆のない世界と一緒にしていきたいと思った。

広島を訪れて

松戸市立松飛台小学校

山田 彩羽

山田 妃代

私達親子にとって広島を訪れるのは今回が初めてでした。以前から“戦争・原爆について学びに行きたい”と思っていたので親子平和大使広島派遣事業に参加できる、となった時はとても嬉しかったです。

原爆ドームや広島平和記念資料館、平和記念公園など実際に自分の目で見て聞いて感じた衝撃は想像以上でした。改めて、その地を訪れて学ぶことの大切さを痛感しました。

広島のシンボルとなっている原爆ドームは爆心地から約160mで被爆したにも関わらず、今も被爆当時の姿のまま力強く建ち続けていることに感動しました。広島平和記念資料館では、遺品や原爆によって苦しんだ人々の写真を見て、原爆がどれだけ恐ろしいものかを知り、茫然としました。悲惨さや無念さ

が押し寄せて来るようでした。広島の人々が
悲しみや苦しみを乗り越えて、未来に向け伝
えてくれたメッセージなんだと感じました。
平和記念公園では、ボランティアの方が公園
内にある一つ一つのモニュメントの意味や想
いを語って下さいました。同じ過ちは繰り返
さないという強い想い、核兵器廃絶といった
真の世界平和の実現など一つ一つのモニュメ
ントに沢山の方々の想いや平和への願いが込
められていることを知りました。

平和とは何でしょう。私達は、食べるもの
があつて水を飲むこともできて、温かい布団
で眠ることが出来ます。こうして戦争・原爆に
ついて学ぶことができるのも平和だからだと
思います。平和は思っている以上に脆くて壊
れやすいものです。過去に恐ろしいことがあ
つても人は時間が経つと忘れてしまいます。平
和な状態を維持していくには、同じ過ちを繰
り返さないと一人一人が決意し、戦争・原爆
について知ること学ぶこと、そして伝えてい

くことが大事だと実感しました。

今回、広島を訪れて戦争・原爆について知り、学んだことを出来るだけ沢山のの人に伝えて、戦争や核兵器のない平和な未来を創っていきたいです。

六実第二小学校 大谷 倫子・大谷 知美（保護者）

親子平和大使として広島を訪れし。

松戸市六実第二小学校

大谷 倫子

大谷 知美

私達は実際に広島を訪問した事で学びが深まりましたと感じています。平和記念公園の空間は本当に美しく、ここで原爆が落とされ非惨な事が起きた事が想像できない程です。しかし、実際にこの場所には家々があり、人々の豊かな暮らしが確かにあ、たはずなのぞす。資料館では黒いけにな。たお弁当箱やポロポロに破れたたくさんの服も目にしました。誰かの腕時計は今も8時15分を指したままです。原爆ドームを目の前にすると言葉を矢う程に圧至りされてしまいました。あらゆる所に亀裂が入り壁もくずれ、あの時間のまま止ま、といると思いました。ただ、そのまま残り、といるわけではなく、くずれぬ様に補強工事を重ねながら、今日まで残せているとの事でした。被爆建物ほ他にもあって、それらを保存する

事も解体するにも費用が必要である現実について公演の方のお話を知りました。被爆して数年経つから原爆症を思い苦しんだ人々もいます。2歳で被爆し、10年後の発症で12歳で亡くなった禎子さんや子供達の像も公園にあります。亡くなった人々だけでなく残された人々の悲しみも辛いものです。ガイドさんに聞いたアオギリの話も心に残っています。戦争で左足を失い、婚約者も失い、生きる気力も失くしてしまった沼田さんは、深い悲しみを抱える中、被爆し枯れ木同然だったアオギリの芽吹きによつて生きる希望をもらえたそうです。沼田さんは87歳で亡くなる迄に戦争についてを世界にも伝え続け続けたそうです。本当に辛い体験を伝え続けてくれた方々のおかげで、戦争を知らない私達は実際に起こった事を知る事ができるのです。今を生きている私達は、過去に何があつたかを知り、忘れははいけません。そして、伝えるべく事ができるのが私達なのだと感じました。

大橋小学校 中野 宙・中野 葉子（保護者）

戦争をなくそう！平和に暮らそう！

大橋小学校

中野 宙

中野 葉子

平和記念公園に行つて、もともと知っていたことをより詳しく調べたり、ボランティアの方の話しを聞いて、今まで知らなかったことや不思議に思っていたことが、いろいろと知ることが出来ました。

初めのころ原爆について写真などで見たくらいでしたが現地に来て知っていくうちに、想像していた以上に、たくさんの人々に苦しみをもたらしていました。たった一つの原爆で十万人以上の人々が亡くなり、一つの街を一瞬にして粉々にする怖さがあることが分かりました。

戦争は、物凄く恐ろしく、たくさんの方やたくさんの人々や生物に大きな影響を与えます。そのことをたくさんの方が広島に平和記念公園として残しておきたいと思うというこ

とは、それだけ戦争が辛くて、世界に戦争の悲惨さを伝えて世界の戦争を止めようという気持ち genuinely 強かったんだと思います。

島を取ったり土地を取ったりする争いに命を奪うようなことが起こらないことを僕は願います。相手を思いやり血を流さずに解決できる方法を考え伝えていきたいと思いました。

広島平和宣言

平和宣言

母は私の憧れで、優しく大切に育ててくれました。そう語る、当時、16歳の女性は、母の心尽くしのお弁当を持って家を出たあの日の朝が、最後の別れになるとは、思いもしませんでした。77年前の夏、何の前触れもなく、人類に向けて初めての核兵器が投下され、炸裂したのがあの日の朝です。広島駅付近にいた女性は、凄まじい光と共にドーンという爆風に背中から吹き飛ばされ意識を失いました。意識が戻り、まだ火がくすぶる市内を母を捜してさまよい歩く中で目にしたのは、真っ黒に焦げたおびただしい数の遺体。その中には、立ったままで牛の首にしがみついて黒焦げになった遺体や、潮の満ち引きでぷかぷか移動しながら浮いている遺体もあり、あの日の朝に日常が一変した光景を地獄絵図だったと振り返ります。

ロシアによるウクライナ侵攻では、国民の生命と財産を守る為政者が国民を戦争の道具として使い、他国の罪のない市民の命や日常を奪っています。そして、世界中で、核兵器による抑止力なくして平和は維持できないという考えが勢いを増しています。これらは、これまでの戦争体験から、核兵器のない平和な世界の実現を目指すこととした人類の決意に背くことではないでしょうか。武力によらずに平和を維持する理想を追求することを放棄し、現状やむなしとすることは、人類の存続を危うくすることにほかなりません。過ちをこれ以上繰り返してはなりません。とりわけ、為政者に核のボタンを預けるということは、1945年8月6日の地獄絵図の再現を許すことであり、人類を核の脅威にさらし続けるものです。一刻も早く全ての核のボタンを無用のものにしなくてはなりません。

また、他者を威嚇し、その存在をも否定するという行動をしてまで自分中心の考えを貫くことが許されてよいのでしょうか。私たちは、今改めて、『戦争と平和』で知られるロシアの文豪トルストイが残した「他人の不幸の上に自分の幸福を築いてはならない。他人の幸福の中にこそ、自分の幸福もあるのだ」という言葉をかみ締めるべきです。

今年初めに、核兵器保有5か国は「核戦争に勝者はなく、決して戦ってはならない」「NPT（核兵器不拡散条約）の義務を果たしていく」という声明を発表しました。それにもかかわらず、それを着実に履行しようとしなければいか、核兵器を使う可能性を示唆した国があります。なぜなのでしょう。今、核保有国がとるべき行動は、核兵器のない世界を夢物語にすることなく、その実現に向け、国家間に信頼の橋を架け、一歩を踏み出すことであるはず。核保有国の為政者は、こうした行動を決意するためにも、是非とも被爆地を訪れ、核兵器を使用した際の結末を直視すべきです。そして、国民の生命と財産を守るためには、核兵器を無くすこと以外に根本的な解決策は見いだせないことを確信していただきたい。とりわけ、来年、ここ広島で開催されるG7サミットに出席する為政者には、このことを強く期待します。

広島は、被爆者の平和への願いを原点に、また、核兵器廃絶に生涯を捧げられた坪井直氏の「ネバーギブアップ」の精神を受け継ぎ、核兵器廃絶の道のりがどんなに険しいとしても、その実現を目指し続けます。

世界で8,200の平和都市のネットワークへと発展した平和首長会議は、今年、第10回総会を広島で開催します。総会では、市民一人一人が「幸せに暮らすためには、戦争や武力紛争がなく、また、生命を危険にさらす社会的な差別がないことが大切である」という思いを共有する市民社会の実現を目指します。その上で、平和を願う加盟都市との連携を強化し、あらゆる暴力を否定する「平和文化」を振興します。平和首長会議は、為政者が核抑止力に依存することなく、対話を通じた外交政策を目指すことを後押しします。

今年6月に開催された核兵器禁止条約の第1回締約国会議では、ロシアの侵攻がある中、核兵器の脅威を断固として拒否する宣言が行われました。また、核兵器に依存している国がオブザーバー参加する中で、核兵器禁止条約がNPTに貢献し、補完するものであることも強調されました。日本政府には、こうしたことを踏まえ、まずはNPT再検討会議での橋渡し役を果たすとともに、次回の締約国会議に是非とも参加し、一刻も早く締約国となり、核兵器廃絶に向けた動きを後押しすることを強く求めます。

また、平均年齢が84歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆77周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和4年（2022年）8月6日

広島市長 松井 一實

令和4年度

平和大使長崎派遣事業



～ 平和大使長崎派遣事業にあたって ～

本市は、「世界平和都市」を宣言して以来、毎年様々な平和事業を展開しており、その一つとして「平和大使長崎派遣事業」を実施しております。この事業は21世紀を担う市内中学生を原爆投下の地である長崎市に「平和大使」として派遣するもので、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学び、戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでいただくことを目的としております。平成20年度に始めた本事業は今年で第13回目を数え、延べ262名の平和大使を派遣しました。

さて、今年の8月9日、長崎市平和公園において「被爆77周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」が開催されました。

式典には過去最多83の国と地域の代表と、約1,600人の参列者が集まり、原爆犠牲者の冥福を祈り黙とうを捧げました。このことから、核兵器廃絶を求める声が世界的な流れになりつつあることが感じられます。

そして、長崎市長は式典の「長崎平和宣言」の中で、不信感を広め、恐怖心をあおり、暴力で解決しようとする“戦争の文化”ではなく、信頼を広め、他者を尊重し話し合いで解決しようとする“平和の文化”を、市民社会の中にたゆむことなく根づかせることを呼びかけました。また、高校生平和大使たちの合言葉「微力だけど無力じゃない」を、平和を求める私たち一人ひとりの合言葉にしていこうと訴えました。

被爆者の平均年齢は84歳を超え、このままでは被爆体験や戦争体験の記憶は風化してしまう恐れがあります。悲惨な記憶を決して忘れないために、そして戦争や核兵器の無い平和な未来を実現していくために、私たちは、直接体験談を聞くことができる最後の世代として真実をしっかりと引き継ぎ、若い世代に継承するということが使命であると考えております。

併せて、世界平和都市宣言における、世界の恒久平和の達成を念願するという理念から、世界各地で続く紛争に対しても目を向け、様々な角度から、広い視野を持った施策を行う必要があると認識しているところです。

本事業を通して、平和大使が長崎の地で学び感じた被爆の実相や平和の尊さを周りの人に伝え、一步ずつでも平和な世界、平和な未来に近づくことを願い、今後も本事業を実施してまいりたいと考えております。

～ 平和大使の役割 ～

- 1 松戸市世界平和都市宣言を知る。
- 2 松戸市の平和スローガンである「みんなで築こう世界の平和」という心を持つ。
- 3 平和への願いを込めた千羽鶴を作製して長崎に献呈する。
- 4 長崎を訪問するにあたって「原爆とはどんな兵器なのか」「戦争がどんなに悲惨なものなのか」などを学び、平和の大切さを認識する。
- 5 長崎市では「青少年ピースフォーラム」に参加して、全国の自治体及び地元長崎の青少年たちと一緒に平和について学び、語り合う。
- 6 長崎訪問終了後、感想や記録をまとめて報告する。
- 7 長崎訪問で経験したこと、思ったことなどを家族や友達などに伝えていく。

～ 平和大使長崎派遣募集要項 ～

中学生の皆さんへ

世界平和都市宣言事業 第13回「平和大使長崎派遣」大使募集要項



松戸市では、戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでもらうため、長崎市で毎年開催される「青少年ピースフォーラム」へ参加する中学生を募集します。
※新型コロナウイルス感染症の拡大状況及びそれに伴う派遣先の受け入れ状況によって事業の一部を変更して実施する場合があります。

【 平和大使とは 】

・ 「平和大使」は、松戸市の世界平和都市宣言に基づき、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて研修や長崎派遣を通じて知識を深め、そこで学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことが期待される人です。

【 対象 】

次の要件をいずれも満たす人が対象です。

- ・ 市内中学校に在学する生徒で、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて学ぶ意欲があり、裏面の日程にある**事前研修、派遣、事後研修全てに参加できる人**。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって長崎派遣が中止となった場合に開催予定の**「青少年ピースフォーラム(オンライン開催)」に参加できる人**。

【 定員 】

- ・ 原則各学校1名とし、全学校で22名（申込者が定員を超える場合は抽選とします。）

【 費用 】

- ・ 市の負担 松戸市から長崎市までの往復交通運賃、宿泊費、長崎市内移動バス電車運賃
8/7(日)の夕食、8/8(月)～9(火)の3食、8/10(水)の朝食・昼食
- ・ 自己負担 事前研修等、会場(市内)までの交通費、8/7(日)の昼食 など

【 申込方法 】

- ・ 参加申込用紙に必要事項を記入して、任意の封筒に入れ学校に提出してください。

【 提出期限 】

- ・ 令和4年6月20日(月)までに学校へ提出

【 研修日程 】

1 事前研修

平和についてのオリエンテーションを行います。（自主学習）

7月18日(月祝) 9:30~12:00 結団式及び第1回オリエンテーション
 青少年ピースフォーラム等の内容説明
 8月 1日(月) 10:00~15:00 第2回オリエンテーション
 戦争、原爆、平和についての自主学習

2 派遣研修

- (1) 場所 : 長崎市
 (2) 期間 : 8月7日(日)~8月10日(水) 3泊4日
 (3) 内容 : 青少年ピースフォーラムへの参加等

< 青少年ピースフォーラム >

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する青少年と長崎市の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として長崎市が実施しています。主な内容として、平和祈念式典への参列、被爆体験講話、平和関連施設見学、平和学習会への参加を予定しております。



過去の青少年ピースフォーラム
 ※現地開催の様子

(4) 「 平和大使長崎派遣 」 日程表 (仮)

8/7(日)	松戸市役所 → 羽田空港 → 長崎空港 → 長崎市内ホテル (自主学習)	
8/8(月)	午前	平和案内人のガイドによる被爆建造物見学 < 場所: 原爆落下中心地公園、城山小学校など >
	14:00~15:15	開会行事 (被爆体験講話など) < 場所: 平和会館ホール >
8/9(火)	15:25~18:00	参加型平和学習 (屋内) < 場所: 平和会館ホール > こじんまりフィールドワーク (屋外ほか) < 場所: 原爆資料館見学など >
	午前	平和祈念式典への参列 < 場所: 平和公園 ※人数の都合上、別会場になる可能性があります。 >
8/10(水)	13:30~15:30	参加型平和学習 (屋内) < 場所: 平和会館ホール >
	ホテル → 長崎空港 → 羽田空港 → 市役所帰庁 → 帰庁報告会 → 市役所解散	

(5) 同行者 松戸市職員4名、添乗員1名

3 事後研修

8月24日(水) 平和大使長崎派遣報告書 (作文) の提出

派遣研修で学んだ成果を生かし、戦争や核兵器の悲惨さや平和の大切さを伝えるため、平和大使長崎派遣報告書を作成します。

11月下旬(予定)「平和の集い」へ参加し、報告会を行います。

～ 平和大使名簿 ～

たなか 田中	みやび 雅	(第一中学校 3学年)
まつもと 松本	やまと 大和	(第二中学校 2学年)
たかはし 高橋	たくみ 拓実	(第三中学校 1学年)
にしやま 西山	みなみ みなみ	(第四中学校 2学年)
たけだ 武田	まお 真央	(第五中学校 1学年)
べにた 紅田	すみれ 純怜	(第六中学校 1学年)
くにさき 國崎	みわこ 美和子	(小金中学校 3学年)
ふくい 福井	けんと 健人	(小金中学校 2学年)
うすい 臼井	あやね 絢音	(常盤平中学校 1学年)
やまぐち 山口	ゆうま 侑馬	(栗ヶ沢中学校 1学年)
させ 佐瀬	れな 怜奈	(六実中学校 2学年)
あべ 阿部	しょうへい 尚平	(小金南中学校 2学年)
なかやま 中山	かの 香乃	(古ヶ崎中学校 1学年)
いわた 岩田	やまと 大和	(牧野原中学校 3学年)
よだ 依田	ちひろ 千尋	(河原塚中学校 2学年)
たけ 武	まゆか 茉友花	(河原塚中学校 3学年)
おかだ 岡田	はやと 隼	(金ヶ作中学校 3学年)
やまおか 山岡	ゆりこ 友梨子	(金ヶ作中学校 1学年)
ふじわら 藤原	ほのか 穂華	(和名ヶ谷中学校 2学年)
さとう 佐藤	かずと 一翔	(専修大学松戸中学校 1学年)

～ 平和大使長崎派遣行程 ～

7月18日（月祝）

◆結団式・第1回オリエンテーション〔市役所議会棟3階特別委員会室〕

結団式では各学校から選ばれた平和大使に任命証が交付されました。

オリエンテーションでは、一人ひとり大使としての抱負を発表しました。また、事業の目的や大使の役割を確認し、青少年ピースフォーラムの説明を受け、先輩大使に貴重な体験談を話していただきました。



〈任命証交付〉



〈平和大使長崎派遣結団式〉



〈オリエンテーション〉



〈先輩大使の体験談〉

8月1日（月）

◆第2回オリエンテーション〔松戸市衛生会館〕

長崎派遣に向けて、リーダー・サブリーダーや派遣中のルールなどの必要事項を決め、コミュニケーションを図りました。

午後は2つのグループに分かれ、グループワークを行いました。「争いの原因」と「争いをなくすためにはどうしたらよいか」をそれぞれに考え、意見交換をしました。そして、グループごとに意見を集約し発表をしました。

長崎派遣のスケジュールと注意事項を確認した後、原爆資料館に献呈する千羽鶴を作るため、大使たちが折った鶴と市民の方々が折ってくれた鶴を平和への願いを込めて一つひとつ糸でつないでいきました。

そして、千羽鶴に添える標語をみんなで話し合って考え、

「つむいでいこう ^{とわ}永遠までつづく 平和の糸」

に決定しました。



〈派遣中のルール、スケジュール確認の様子〉



〈グループワーク〉



〈千羽鶴の作製〉



〈千羽鶴に添える標語について話し合う〉

8月7日（日）

◆9：30 長崎市へ出発

9時に松戸市民劇場に集合し、出発式を行い、家族や関係者に見送られてバスで羽田空港に向かいました。13時05分に羽田空港を出発し、14時40分に長崎空港到着、バスで長崎市内の宿泊ホテルへ向かい、16時30分頃ホテルに到着しました。



〈出発式〉



〈羽田空港出発ロビー〉

8月8日（月）

◆9：00 被爆建造物見学

朝8時15分にホテルを出発し、被爆建造物見学へ向かいました。

見学は2班体制で、それぞれボランティアの平和案内人によるガイドのもと、原爆落下中心地、城山小学校、平和公園を約2時間かけて歩いて巡りました。平和案内人の方が、当時の悲惨な様子をわかりやすく説明してくれました。実際に被爆建造物を自分の目で見ること、被害がどれほどのものだったのか伝わってきました。



〈原爆落下中心地碑〉



〈浦上天主堂遺壁〉



〈被爆当時の地層〉



〈被爆校舎（城山小学校平和祈念館）〉



〈平和祈念像（平和公園内）〉

◆12：35 千羽鶴献呈〔長崎原爆資料館〕

大使と松戸市民の思いをのせた2つの千羽鶴を長崎原爆資料館に献呈しました。



〈千羽鶴献呈〉



〈松戸市の千羽鶴〉

◆12：45 長崎原爆資料館見学

千羽鶴を献呈した後、長崎原爆資料館を見学しました。資料館には、原子爆弾の実物大模型や原爆の被害を受けた物品、被爆された方の写真など、資料がたくさん展示されており、改めて原爆の恐ろしさを実感しました。



〈原爆の被害を受けた物品など〉



〈原子爆弾「ファットマン」の実物大模型〉

◆14：00 青少年ピースフォーラム(開会行事)参加〔長崎市平和会館〕

青少年ピースフォーラムには、全国から小・中・高校生が参加しました。

開会行事では、青少年ピースボランティアによる開会宣言、長崎市長挨拶の後、長崎原爆の被爆者である山田一美さんから被爆体験講話を聞きました。



米軍沖縄上陸作戦	
1945年4月1日～	
地上軍	18万
海兵隊	2個師団
陸軍	2個師団
輸送船団	1300隻
航空母艦	13隻
戦艦、巡洋艦	19隻
駆逐艦	23隻
砲艦	177隻
計	1524隻

〈被爆体験講話〉

◆15：40 青少年ピースフォーラム(平和学習)参加〔長崎市平和会館〕

続いて、青少年ピースボランティアの進行による平和学習に移りました。参加者全員がグループに分かれて、原爆資料館周辺を巡るフィールドワークを行った後に、スライド学習や戦争模擬体験を行い、被爆の実相を学びました。

また、令和4年9月24日(土)に長崎市で行われる『平和の^{ともしび}灯』で灯されるキャンドルに平和を願いながら絵付けを行い、1日目の青少年ピースフォーラムが終了しました。



〈フィールドワーク〉



〈スライド学習〉



〈戦争模擬体験〉



〈『平和の^{ともしび}灯』用キャンドル絵付け〉

8月9日（火）

◆10：40 平和祈念式典参列〔平和公園・出島メッセ長崎〕

「被爆77周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」参列の日を迎えました。

朝8時50分にホテルを出発し、大使たちは2会場（平和公園、出島メッセ長崎）に分かれて、それぞれ緊張した面持ちで会場に入りました。

厳粛な空気の中、式典が行われ、原爆投下時刻の午前11時2分、サイレンと長崎の鐘が鳴り響きました。原爆犠牲者のご冥福と世界の恒久平和を祈り、黙とうを捧げました。

被爆77周年
長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典

式次第

- 10時40分 被爆者合唱
- 10時45分 開式
- 46分 原爆死没者名奉安
- 48分 式辞（長崎市議会議長）
- 52分 献水
- 54分 献花
- 11時02分 黙とう
- 03分 長崎平和宣言（長崎市長）
- 12分 平和への誓い
- 19分 児童合唱
- 24分 来賓挨拶
- 40分 合唱 千羽鶴
- 45分 閉式



〈平和の泉（平和公園内）〉



〈平和公園〉



〈出島メッセ長崎での献花の様子〉



〈平和公園での黙とうの様子〉

◆14:00 青少年ピースフォーラム（平和学習）参加〔出島メッセ長崎〕

午後は、前日に引き続き、青少年ピースフォーラムに参加しました。グループとなり、前日の平和学習を踏まえて「ケンカ・戦争の原因は何だろう？」をテーマに意見を出し合い、「ケンカや戦争をなくすには、どうしたらよいか」話し合いを深めました。そして各々が「My 平和宣言」を作りました。

2日間の青少年ピースフォーラムを通じて、全国から集まった同年代の参加者と活発な意見交換と交流ができ、大変貴重な体験となりました。



〈意見交換〉



〈発表〉



〈My 平和宣言〉



〈参加者集合写真〉

◆19:50 自由学習（グラバー園見学）

青少年ピースフォーラムを終え、夕食後、自由学習に向かいました。

大浦天主堂下を通り、グラバー園を散策しました。グラバー園から見た長崎市の夜景は美しく、大使たちの良い思い出となりました。



〈大浦天主堂下〉



〈グラバー園〉

8月10日（水）

◆8：45 松戸市へ出発

4日間お世話になったホテルの方にあいさつし、バスで長崎空港へ向かいました。
12時35分に長崎空港を出発し、長崎を後にしました。移動中、各々が帰庁報告会に向けて準備をしました。

14時30分羽田空港到着。市の迎いのバスで、市役所へ向かいました。



〈長崎空港〉

～ 平和大使長崎派遣帰庁報告会 ～

◆16：10 松戸市役所到着

松戸市役所に到着。みんな元気に帰ってくることができました。

◆16：30 帰庁報告会〔市役所新館7階大会議室〕

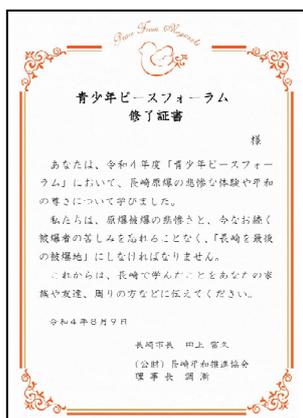
市長や教育長、出迎えてくれた家族に、長崎市で見て、聞いて、体験したこと、また派遣を通して感じた平和への思いなどを一人ひとり報告し、4日間の派遣日程を終えました。



〈帰庁報告会の様子〉



〈青少年ピースフォーラム修了証書を手に集合写真〉



〈修了証書〉



〈YouTube 動画 平和大使長崎派遣 帰庁報告会〉



動画QRコード

～ 平和の集い ～

11月27日（日）

◆13：10 平和大使長崎派遣報告会〔市民劇場〕

「平和の集い」の中で、大使の役割を果たすべく、長崎派遣を通して学んだことや感じたことを、市民の皆様へ報告しました。

スクリーンに映し出した写真などに合わせて、事業の目的や大使の役割、結団式から長崎派遣、そして帰庁報告会までの流れを紹介するとともに、場面ごとに学んだことや感じたこと、今後の決意を伝えました。



今年で戦後77年を迎えました。私たちの周りでは、戦争を実際に体験した方々が高齢になり、少なくなっているため、直接お話を聞くことがだんだん難しくなっています。

しかし、戦争で命を落とした犠牲者や被爆者の方々の思いを無駄にしないために、そして今後の平和を実現していくために一番重要なことは、私たち平和大使を含めた未来を担う若い世代が、平和への関心を高め、その大切さを代々受け継いで行くことだと思います。

私たちは、長崎市で見て聞いて感じた戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さをたくさんの人に伝え、次の世代に、未来の人々に伝えていく活動をしていきます。

平和大使の報告

私達が伝えていくべきことは何か

第一中学校 3年

田中 雅

1945年8月9日、1発の原子爆弾が長崎の地に投下され、一瞬にして人々を苦しめました。

私は、この長崎派遣を通じて、平和について、当時の日本の現状や戦身、国際関係などについても多くのことを学び、考えることができました。そこから一番感じたことはやはり核兵器は恐ろしいということでした。

長崎を訪れる前は、少ない情報しか持っていないのがたのびが、実際に被爆した方のお話を聞き想像すると、とても胸が痛みました。

原爆資料館、追悼平和祈念館へ足を運んだ際も、皮膚が焼けてただれ落ちてしまっている人、被爆した方の人数の多さにもおどろきました。当時のものが展示されているので、目を背けたくなってしまいました。

ですが、これらの起こってしまった事実を

受け止め、私達若者が伝え続けなければなら
ないと思っております。長崎市への原子爆
弾投下から今年で77年が経ちました。77
年が経った今も尚、放射線による後遺症や心
に負った傷で苦しんでいる方がたくさん居ま
す。

当時、長崎では約7万4000人の方が亡
くなりました。ですが、今年までの被爆者数
は19万2310人です。毎年約2000人
も増えていっているのです。それは、強い放射線が
加わった為起こり外傷が無い方も亡くなっ
ていっているのです。

この方々の想い、被爆した方も段々高齢に
なってきたおりに、直接お話を聞けることが少
なくなってきた。私達は、実際に被爆し
た方の話を聞ける最後の世代として、原爆で
亡くなった方、被爆し苦しんでいる方また、
長崎の人々らの想いを周りの人、友人や家族
に伝えていかなければならぬのです。

「長崎を最後の被爆地に」「もう二度と作

らなリで「わたしたち被爆者を」

私は長崎へ行きたくさんの言葉、環境に
触れ考えることができました。世界にはまだ、
1万以上の核兵器があります。それらが使用
される日が来なリよう、上のような言葉を胸
に、小さな行動から少しずつ積み重ねていき、
平和へ繋がるよう、平和が続くよう行動して
いきます。

長崎平和大使で感じたこと

第二中学校 2年

松本 大和

1945年8月9日午前11時2分に長崎市
松山町上空500メートル地点でアメリカ軍
のB-29爆撃機からファットマニ型原子爆
弾が投下されました。

たった一発の破壊兵器により、約7万4千人
の尊い命が一瞬に奪われ、約7万5千人の人
達が負傷して、放射能に甚しむ多くの人達が
今なおいることが分かりました。

そして、青少年ピースフォーラムで、被爆体
験談の話が被爆者の方から聞いてきました。

その方は、人々が原爆による大やけどや大け
がで川までいったことで、川が死体でうめつ
くされていったとの事です。

川だけではなく、道にも死体やがれきで埋め
つくされていて歩くのが大変なほどだったそ
うです。

次に、核爆弾の音をB29弾の音ほどのくらい

あるかを感じました。

今現在で世界にある核をB2弾の音で感じた時、ものすごい核の量だなと思いました。

現在、世界には約1万3千発の核兵器が保有されています。それも長崎、広島に投下された原子爆弾よりも高威力の兵器です。

核保有国のリーダー達の他国よりも優位に立ちたい、威嚇したいというエゴとプライドで開発と保有を続けています。一部の国では減らすどころか、保有を増やしています。唯一の被爆国である日本は先頭に立ち、核兵器の廃絶を推奨しなければなりません。アメリカの「核の傘」に守られているという考えなのか強く訴えることができていないように感じます。

私個人の考えですが、日本人はアメリカに「核兵器で日本を守ってください」とはお願いしていません。

日本政府の方々には今一度、長崎、広島の被爆の悲惨な被害と核兵器の恐ろしさを世界に

発信して核兵器廃絶を声高々に訴えてほしい
と思います。

長崎を最後の被爆地として、そして今後二度
と核兵器が使用されることのないよう、核兵
器をなくし核開発に使う費用を貧困にあえい
でいる人たちに使った方がいいと思います。
最後にそのことを私は家族や友達に話を
していきなさいと思います。

長崎で学んだこと

第三中学校 1年

高橋 拓実

今から77年前、8月9日、小倉に落とす予定だった原爆が、長崎に落とされた。約7万4千人の人が亡くなり約7万4千人のけがもあった忘れえはいいけないことです。

僕が長崎に行った時には、自然豊かな町でした。本当に被爆したのかと思いました。

まずは、平和案内人からくわしく話を聞きました。被爆した建物などを回りました。

次に原爆資料館で、被爆した物を見ました。

青少年ピースフォーラム一日目では、被爆者の話を聞きました。とにかく、悲惨ということはお分かりました。

次の日、僕は、平和式典に参列しました。被爆者、長崎市民、総理大臣が、平和を願っていました。自分もそんな気持ちで見えました。

また、青少年ピースフォーラム二日目では

他の市の平和大使と、戦争とけんかについて、
考え、それは、どうすれば解決するのかを一
緒に行いました。

改めて、平和に対する思いが強くなったの
が、長崎に行つて思ったことです。

今、ウクライナ侵攻が始まつてから半年が
経ちます。ロシア側もウクライナ側でも、戦
争で多くの尊い命が失われていきます。二国
の問題だけで終わるのが、他の国も巻きこまれ、
第三次世界大戦が始まつてしまうのか。僕は、
世界の人々が平和を願えば、和解すると、
思います。

長崎を最後の被爆地にする思いは、世界の
人々がすれば、叶うと思います。

僕は、それを信じています。

平和大使として伝えたいこと

第四中学校 2年

西山 みなみ

私は、今回の平和大使長崎派遣において、原爆の悲惨さや、一瞬にしてたくさんの建物や人々の尊い命が焼きつくされてしまう恐ろしさを感じました。

2日目に訪れた原爆資料館では、当時の被爆の実相をとても詳しく知ることができました。中でも、まだとても小さい赤ちゃんがお母さんと一緒に亡くなったという写真を見た時は、心が痛くなり、二度とこのような悲惨なことが起きてはならないと、強く思いました。

青少年ピースフォーラムでは、被爆体験講話を聞き、被爆者の方がおっしゃっていた、「原爆は、無差別に人々を殺害するもので、二度と戦争は起さしてはいけない。武力によって解決しようとする考えはおかしい。」という強い主張を聞き、本当にその通りだと感

じました。その言葉を聞いた私は、被爆した方の思いをし、かりと受け止め、一人でも多くの人に戦争の恐ろしさ、そして「平和」の尊さを伝えていこうと思いました。

また、戦争疑似体験では、空襲警報が鳴り響き、自分の手元にあった大切なものカードがすべて無くなってしまう、家族や友達、学校などのあたり前にあったものが消えてしまうという戦争の怖さを体で実感し、昔の人々が、いつ大切なものが無くなるかわからない状況で、どれだけの恐怖を抱きながら生活していたのかがわかりました。

戦後77年が経った今も、防空壕や建物に当時の生々しい傷が残っている長崎の地で、見たり聞いたりしながら「平和」について考えることができて良い経験になりました。現在、世界中には12,720発という数の核兵器が存在しています。この核兵器を1秒でも早く無くすためには、身の周りの家族や友人、地域の人などに長崎で学んだことを伝えていきた

いと思います。「今の平和は、たくさんの犠牲のもとにある」ということを忘れずには、長崎を最後の被爆地にできるようなしていきたいと思います。

平和への願い

第五中学校 1年

武田 真央

私は、「平和大使長崎派遣」で学んだ事が大きく二つある。一つ目は、他の兵器とは比べ物にならない程の三つの威力がある。という事だ。三つの威力とは、爆風・熱線・放射線だ。放射線では、今もなお苦しんでいる人がいる。と被爆者の方々は言っていた。放射線の影響は、いつでてくるかわからない。遺伝子的な問題で結婚をしないといった差別を受けてきた人も多くいた。被爆した方々は恐怖、不安、悲しみ、そんな思いをかかえながら日々過ごしている。被爆者の方々はこの事を思い出したくないし、話したくもないと思う。しかし、その気持ちよりも長崎を最後の被爆地にすするため、もう二度と原爆を落とさせないために自分達の経験を伝えていってほしいという思いがとても強いのだと思った。

今年で原爆投下から77年たった今、原爆死没

著名簿が3冊増えたという。

被爆を直接体験した方々がいなくなっ
てしまふ日がせまる中、私達「平和大使」が被爆
者に代わり、今後の明るい未来のために平和
の大切さ、命の尊さについて伝えていき
たい。

二つ目は、青少年ピースフォーラムで昔の
人になりきる疑似体験での事だ。ウー
ーと空襲警報が館内になり響き、一
気に背筋が冷たくなった。けれど、昔
の人はこの状況が毎日のように続き、
その中でも一生懸命暮らしている。

私が書いた「大切な物カード」では、
1枚も残らず、私の周りから大切な人・
物・場所がどんどん失われていった。
今、私達は大切な人、物、場所に
囲まれながら、何不自由なく暮らして
いる。そんな平和な生活がいつ失われ
るか分からない。1日1日を感謝して
生きる事が大切だと私は学んだ。

この、平和な生活がいつ失われるか
分からないということが今現実として
近づいてきて

いる。私達が暮らす日本の周りには、たくさん
の核保有国がある。そして、第三の戦争被
爆地が現れそうになっている。世界には、今
現在12,720発もの核兵器がある。そんな
現状で、私達の未来を平和に築く事はできる
のだろうか。持っいても使われることはな
いだろうというのは幻想であり、期待にすぎ
ない。一人の力では、世界の平和にはつな
がらない。しかし、世界中の人々が核兵器の恐
ろしさを知り、それを伝えていく事が平和な
未来を築くための第一歩になると思う。

長崎に泊る日、原爆の悲惨さ、人が亡く
なっている姿を見て、私の心はすごく痛んだ。
しかし、実際に被爆を経験した方々はその何
倍にもおよぶ、悲惨な光景を目の前で見
ている。その光景は一生忘れる事がなく、心身と
もに深い傷を負っている。そんな思いをする
人をもう二度とつくりたくない。そのた
めに、私達がこの体験で学んだ事を一人でも
多くの人に伝え、世界中の人々が核兵器の恐

ろしさを知るきっかけになってほしいと私は
思う。

被爆の実相と原爆のおそろしさ

第六中学校 一年

紅田 純伶

私は今回の長崎派遣で、戦争・原爆について沢山のことを学んだ。

一つ目は、原爆のおそろしさ、だ。原爆投下中心地に行き、下時、熱風でれんがや石がずれてしまった建物を見た。頑丈に造られた建物がこんなに被害を受けるなんて、びっくりした。おそろしい、と感じた所はもう一つある。それは、被爆して77年経つ、下今でも、原爆の放射線によって亡くなっている、という事だ。放射線を浴びると、がんや白血病になって、亡くなってしまう。また、いつ飛症するかもわからない。とてもおそろしい、と思った。

二つ目は、原爆の悲惨さ、だ。原爆資料館や、旧城山国民学校に行き、た時、くずれた教会や、半分だけ残っている校舎などを見た。資料館では、熱でくっついたかろうすびんや、

背中の皮がはがれてしまった子の写真、から
スのはへんてたくせんの穴があいた服など、
悲惨さあふれるものてたくせんだった。旧城
山国民学校には、少しだけ残った校舎や、永
井坂、かま子様など、人々の平和への思いが
見えるまうびものばかりだった。この二箇所
では、悲傷や 人々の平和への思いが浮いた。

三つ目は、被爆者の願い、だ。被爆した方
の話聞いて言葉の節々から、「戦争をしない
てほしい」「平和でいてほしい」といった
思いが感じられた。話の中で、子供の時はア
メリカをわっつける、と言っていた、という
話があった。それは、まわりの大人が戦争に
反対せず、そう教えていたからだと思う。大
人の対応一つで、子供が信じるものを簡単に
操作でまてしまおうとかがとても怖か、だ。被
爆した方の話はとてもリアルティがあって、
一気に原爆が身近になった気がした。平和成
典で話す人たちのほとんどがロシアとウクラ
イナの戦争についてふれていた。被爆者代表

の話は 長崎を最後の被爆地に、という気持ち
が強くあるので、と伝わった。

私は3泊4日の長崎派遣を終えて、世界に
発信できるのは国会議員や市議会議員たちだ
と思う。今の私たちに世界に発信するのは難
しい。だからまずは、身近な家族や友達に話
して、それをまわりの人にも伝えてもらう。
それが一番私達がしなきゃいけないことだ
と思う。また、まわりの人に伝えると思う
と同時に今後もう二度と核兵器を使用しては
ならない、と強く思う。

「長崎を最後の被爆地に」

小金中学校 3年

國崎 美和子

私は、昨年度の青少年ピースフォーラムにオンラインで参加することが出来ましたが、実際に長崎を訪れることは叶いませんでした。しかし今年度は、実際に長崎の地で原爆や戦争、平和についてより深く学び、肌で感じる事が出来ました。その中でも特に心に残っていることが二つあります。

一つ目は被爆者の方の講話です。講話をしてください、た山田さんは爆心地から約2km離れた所で被爆したそうで、当時の惨劇を私たちに語りてくれました。裏山で被爆したため無傷だったが、た山田さんが、家の周りの様子を見に行、た時に、家の近くの水場で泳いでいた同級生や、子ども達の背中がすべてむけてしまっていたこと。9日の夜、助けを求めて家の周りにたくさん入の多くが酷い火傷などの怪我を負っていて、すでに死んでしま

っている赤ちゃんを背負っている母親がいたことなど、目をそむけたくなるような痛ましい話ばかりでした。私たちの世代は「被爆者の方の話を直接聞ける、最後の世代。」と言われていています。目をそむけたくなるような話でも、私たちはこのような過去があったことをしっかりと認識し、次の世代へ、直接話を聞けた私たちが語り継いでいかなければいけないと強く感じました。

戦争疑似体験は、自分の大切な人や物を紙に書いていき、何か起こる度にその紙を手放さなければいけないというものでした。本を読んだり、話を聞くのとは、また違う恐怖を感じました。家族の名前が書いてある紙を手放すときは、胸が締め付けられました。またこの疑似体験と同じ、またはそれ以上のことが起きてしまったことを改めて実感し、もう二度と戦争はしてはいけないと、より一層平和への意識が高まりました。

これらのこと以外も、たくさんのごことを感

じ、学ぶことが出来ました。この、とても貴重な体験は、今の私にとっても、これからの私にとっても、とても有意義なものになったと強く感じています。この貴重な体験を無駄にせず、高校生平和大使の方々の合言葉「微力だけど無力じゃない」を胸に、この平和大使長崎派遣で培った経験を活かして、周りの人に平和の尊さを伝え、様々な活動に取り組んでいきたいと思っています。

「長崎を最後の被爆地に」

長崎で学んだ事

小金甲学校 2年

福井健人

僕は、平和大使として四日間長崎に行きました。その時、どのような事を知れたのかを3つ書きます。

一つ目は、原爆の恐ろしさについてです。僕たちはまず二日目の最初に長崎原爆資料館に行き、様々な資料を見ました。まず驚いたのは、瓶の展示です。ただの瓶ではありません。溶けてくっついたも本の瓶です。なぜ、こうなったのか、理由はとても熱い熱線です。原爆投下後、爆心地から、とてつもないほど高温の熱線が広がって行き、その時の地表の温度は3千~4千度に昇り、人の皮ふや瓶、レンガまでもを溶かすのです。この高温の熱線を受けると人間だと考えられないほどの全身焼けどになり、そこで体が溶けなかった人は、皮ふがはがれ、熱いためとにかく必死に水を求めて集団で歩き続けなくなってしまうそう

です。またその後、放射線により、様々な病気を発病、最終的には長崎の人口の約3分の1に当たる73,884人が亡くなりました。その瓶は、その時の熱線のすさまじさを物語る物だと言えます。

二つ目は被爆者の強い思いです。僕は長崎に行っている間、何回も聞いた言葉があります。それは、

「長崎を最後の被爆地に！」

です。この言葉は、被爆者が必ず、力強く言う言葉でした。それもそのはず、被爆者は原爆の熱線で死なななくても放射線によるがんに苦しめられながらも生きてきました。しかし親を目の前で亡くしたりと、大変な人生を送ってきました。そのため、後の人々には、こんな目に合っほしくない、そのために語ってくれています。その事を考えるとこの言葉にはものすごい重みを感じるな、と思いました。

三つ目は核の数についてです。僕は前まで、

アメリカなどの大きい国は、ほどほどに持っているだろうけど、そこまで多くは持っていないだろう、と思っていました。しかし、資料館で世界には多くの核がある事がわかりました。その数は、12,720発。長崎と広島に落ちた2発に比べると、とても多い事がわかります。また、この核は、長崎に落ちた物よりさらに強力な物もあり、また核の保有数がアメリカとロシアがだんとつでトップのため、次の核が落ちた時は世界滅亡への入口なのかもしれません。

僕は、長崎に行き、以上のもつを知る事ができました。そして感じた事があります。それは、

「今までの日常が平和」

だと言う事です。今こうして普通に生活できている。それだけでも、とても幸せな事です。だけれども、ずっと平和に過こし続けていければ平和が当たり前だと思い、原爆の事など忘れてしまいます。それを防ぐためには原爆を知

。こゝろの人々が伝えていく事がとても重要で
す。ただ今は伝える事のできる世代が少しず
つ、お亡くなりになっていってしまいます。そのよ
うな事になっていくと、原爆を知らない人々が
出てきてしまいます。そのような世代だと、
また核を使う日が来るかもしれないです。そ
のような事にならなうように、しっかりと伝
えられるようになりたい、と思います。戦後
77年、これから長崎が最後の被爆地とな
り、核のない平和な世界に、いつかなくてほ
しい、そう自分で思い、この事を一人でも多
くの人に伝えてゆきたいです。

次の世代への「架け橋」に

常盤平中学校 1年

臼井 絢音

今年の2月、ウクライナでの戦争が勃発し、世界の景色が一変してしまいました。連日、それに関するニュースを観てとても衝撃を受け、「自分にできることは何かあるのだろうか」と考える様になりました。その様な時に「平和大使長崎派遣」大使募集のご案内を目にし、募集内容にとっても興味を持ったので、この長崎派遣に応募しました。

長崎では、人生観が変わる様な経験をさせていただきました。ここでは、長崎原爆資料館、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典（以下平和祈念式典）、青少年ピースフォーラムでの経験について述べていきたいと思います。

まず、長崎原爆資料館では、被爆で大怪我を負ってしまった方の写真や強烈な熱線を受けてくっついてしまった瓶、ガラスが突き刺さった服などを実際に目にすることによって、

原子爆弾の壮絶な恐ろしさを実感することができました。それは私の想像を超えるものでした。例えば、長崎に投下された原爆「ファットマン」の原寸大模型を見て、「私の身長約2倍の大きさの爆弾が1つの都市を破壊してしまうなんて。」と衝撃を受けました。当資料館を訪れて、まさに「百聞は一見にしかず」と感じました。

次に、平和祈念式典に参列しましたが、被爆者でつくる合唱団「被爆者歌う会ひまわり」による合唱に最も感銘を受けました。会員の方々の高齢化のため、当式典での「ひまわり」による合唱は今回が最後とのことでしたが、魂のこもった歌声に私の感情が大きく揺さぶられました。被爆という悲惨な経験を乗り越えてこられた方々から発せられる「平和を真に願う想い」がその歌声から伝わってきました。今回、式典での最後の合唱を間近で聴けたことは、私にとってとても貴重な経験となりました。

そして、青少年ピースフォーラムでは、全国の自治体から派遣された青少年と長崎市の青少年とが一緒に学び、交流しました。私は意見交換会では他県の大使含む10人の班に属し、戦争や平和について意見交換をしました。様々な視点での意見が出され、学びを深めることができました。この意見交換を通じて、「平和な世界を築いていくためには、1人1人が相手の立場になって考えていくことが大切である。」と感じました。身近な範囲における平和が、最終的には、国と国レベルの世界平和につながっていくものと考えました。

この長崎派遣を通じて感じたことや学んだことはとても多かったです。これからも、「平和とは何なのか」「どの様にすれば平和でいられるか」を学び、考え続けていきたいと思えます。そして、将来、それらを自分の好きな英語を活かして世界の人々にも発信していき、平和な世界の創造の一助になると共に、被爆者の方々の想いを次の世代へとつないで

いく「架け橋」となっていきたいです。最後に、この度は貴重な機会を与えてくださり、誠にありがとうございました。

長崎の傷跡

栗ヶ沢中学校 1年

山口 侑馬

1939年9月1日、太平洋戦争が始まり
1945年8月6日午前8時15分広島に原爆
リトルボーイが投下され、同年8月9日午前
11時2分長崎に原爆ファットマンが投下され
た。日本は、原爆投下から今年で77年を迎え
る。

私は、8月7日～8月10日まで、原爆地長
崎を訪れ、原爆の悲惨や、命の尊さを知りま
した。中でも特に印象に残った事を話します。

印象に残った事は原爆の破壊力です。長崎
の原爆は威力が強く直径1.0km以内の建造
物は全壊全焼3.0km近くでも全焼していま
す。皆さん考えてください、11時2分皆さん
はまだ、授業をやっていたり、大人の方は職
場で仕事をやっています。そんな時に突然まぶ
しく光ったと思ったら建物が壊れ暑くなり、

皮膚は、ただれ火暴風でガラスが飛び体に突きささります。私はこの事を聞いた時ゾッ、としました。皆さんはこの話を聞いてどう思いますか？皆さんの中にこれを経験したい人はいないと思います。ですが昔の人は何もしらずにこの悲惨な出来事を経験しました。中には死んだ人もたくさんいます。今ウクライナとロシアが戦っています。テレビでは毎日のようにほうどうされていてこの戦争がどんどん広がっていき第三次世界大戦がおこるかもしれません。

世界には水素爆弾という火暴弾がありその威力は長崎に落とされた原子爆弾の2500倍です。そんなものが日本に落とされたら日本は無くなるかもしれません。

戦争はいつも、私たち市民社会に暮らす人間を苦しめます。だからこそ私たち自らが、「戦争はダメだ」と声を上げることが大事です。不信感を広め恐怖心をあおり、暴力で解決しようとするのではなく、信頼を広め他者

を尊重し、話し合いで解決しようとするこ
とを、市民社会の中にたゆむことなく根づかせ
ていきましよう。

高校生平和大使たちの合言葉、「微力だけど
無カじゃない」、この言葉のように一人一人が
小さい平和活動をしていけばかならずは、平
和を築く力になると少くとも私はそう思いま
す。

戦争への価値観

六実中学校 2年

佐瀬 怜奈

77年前、8月9日に原爆が落とされた長崎の地に平和大使として訪れた。

以前から私は原爆に関する漫画やテレビ番組を見ており、原爆の威力や影響をそれとなく知っていた。だが、現地に行き、実際に写真や被爆の実相を見てみると、感じる「重さ」がまた違った。そしてまだ知らなかったことが学べたり、再認識できたことが大いにあり、とても充実的だったと思う。

帰庁報告会の際に言ったように、戦争や原爆を学ぶときには「実感」を持つことが大事だと感じた。青少年ピースフォーラムでの戦争の疑似体験で自分の大切なものや場所をカードに書き、実際に戦争当時の状況を再現してみても、大切なものがなくなったらそのつどカードを減らしていく、というものがあつた。戦争が進むにつれ、自分のカードがどんど

ん消えていき、20枚ほどあ。たものか3枚しか残らなかつた。その時戦争での居場所がないということに気づいた。同時にその気づきは戦争に対する不安感を募らせた。戦争体験者の方は「戦争を絶対に起こさないでほしい。」その一心で戦争を語る活動をしている。

私も身をもってこの思いを実感できた。だが今回私が感じられた恐怖心や嫌悪感ほんの少しに過ぎない。実際に体験した人の恐怖は想像を絶する。

最近、ロシアがウクライナに軍事侵攻をしたことがあってから「戦争」というものが急に生々しく身近に感じられた。にもかかわらず、この国で戦争が起こり周囲の人がせくなることはまさかないだろう、と心の中では少しはかたくくっしている自分がいた。このころの私には戦争に対する「実感」がまだしっかりと持っていないか、と思う。

戦争に対して「実感」を持つことは難しく感じる。私も生々しく感じられたのは戦争の

疑似体験が初めてだ。だけど私は、実感を持ったことで戦争の危機に対する自分の価値観が変わり、より平和を願う気持ちが強くなった。戦争によって起こる孤独や恐怖を理解出来る人が増えたら、戦争から少しでも遠ざかるのではないかと、このことを平和学習で改めて強く思った。

原爆の詩、被爆の実相を伝えられるもののひとつである。私はこれらの詩の中で胸を打ったものがあった。それは平和の泉の石碑に関してのことだった。「のどが乾いてたまりませんでした。水にはあぶらのようなものが一面に浮いていました。どうしてもどうしても水が欲しくてとうとう油の浮いたまま飲みました。」この詩が短い故、私は原爆の様子がより鮮明に感じられた。また永井博士の詩でも心揺さぶられるものがあった。ここから私はこの言葉で伝えるものの強さを改めて実感した。言葉の力の強さを実感できる慣用句として「ペンは剣よりも強し」というものが

ある。言葉は武力より強い力を持っている、
即ち武力に屈しない、ということだ。私はこ
のことを胸に留めておきたい。

被爆者の方や戦争体験者の方の高齢化が進
み、徐々に亡くなった人が増えていく。それ
に伴い戦争も昔になりつつある。

今、太平洋戦争やその実相は私たちのよう
な次の世代の手によって伝え継がれている。
そのような人たちのおかげで私も戦争に触れ
てみる機会が多くあった。だが、昔の私は戦
争の写真がグロテスクだったりして、当時の
様子が想像しにくかった。しかし、この長崎
の地で被爆体験者の思いだったり原爆の事実
だったりを知り、私はこの出来事を、「昔の
話」で終わらせたくないと思った。核兵器の
ある世の中では、必ずしも核兵器が使われな
いと言いきれない。長崎と広島で起こ
った惨事が今また起きるかもしれないのだ。

核兵器発射のボタンを押す人の気持ちや考
えは分からない。各々の考えは他人である私

には解らないけれど、互いに自分の考えを「言葉」によって共有することはできる。また言葉で意見を交わすことによって戦争に対する「実感」や価値観を変えることだって可能だ。だから、私は言葉は人を一番変えることのできるものだと思う。私はこの言葉の素晴らしさを信じて、戦争が原爆のことを伝え、平和へ少しでも近づけられる活動をしていきたい。

長崎派遣を終えて

小倉南中学校 2年

阿部 尚平

長崎派遣で、私は平和の尊さについて深く学ぶことができました。特に印象に残っているのは、被爆者の方々の平和に対する強い気持です。

被爆者の方々をはじめ、多くの長崎の方々が「長崎を最後の被爆地に」という考えでした。長崎に原爆が落とされて、多くの方々が大切な人やものを失ったりまたは自分自身がけがをしてしまったり病気になってしまったり、と大きな被害が出ました。その時、「なんで自分たちだけこんな目に遭わないといけないんだ」と思い、他人の幸せを喜ぶことができないことも、他人の不幸を悲しめないこともあったと思います。ですが被爆者の方々は自分たちの不幸が他の人にも起きないように、戦争の恐ろしさを発信し続けています。その勇気ある素晴らしい行動を見て、私も私

にできることをしたいと思いました。高校生
平和大使のスローガン「微力だけど無カじゃ
ない」という言葉を信じ、世界平和に少しで
も貢献したいです。それが平和大使としての
使命だと思っています。

また、長崎原爆資料館を訪れて戦争や原爆
のおそろしさについても学ぶことができました。
日本は被爆国ですが私はその場にいたわ
けでもなく、そもそも広島・長崎への原爆投
下は私が生まれる60年以上前の出来事なので
「原爆」について想像することができません
でした。ですが、ぼろぼろに焼け焦げた僧衣
や高熱なガラスに溶けた人間の手の骨、熱線
の直射を受けて焦げた板壁などを実際に見て、
原爆はとてもおそろしいものであり、二度と
使ってはいけなないものだと思いました。

しかし、2022年6月の時点で世界には12720
もの数の核弾頭があります。昨年と比べ40減
っているものの、未だに大量の核兵器が存在
しています。さらには、世界の核弾頭12720の

うち約47%を占める5975発の核を保有して
いて、世界で核保有数が1番多いロシアが今年
2月にウクライナに侵攻し、今も続いていま
す。なぜ戦争は起きてしまうのか。それは戦
争の悲惨さを知る人が少なくなっているから
だと思います。だからこそ、今回学んだこと
を発信していくことが大切だと思います。自
分の平和への思いを大切にして、行動してい
きたいと思いました。

長崎派遣を終えて

古ヶ崎中学校 1年

中山 香乃

私は、この長崎派遣で印象に残った事は三つあります。

一つ目は、原爆資料館です。原爆資料館では、鉄骨が曲がっていたり、硬いはずのビシがぐにゃりと変形したりしていました。その時、すごい熱が発生した事が分かりました。他にも、瓦やすずり、弁当箱などが変形していました。又、原爆のせいで腫大した脾臓がありました。その腫大した脾臓は、通常の約36倍の大きさでした。私はそれと同時に原爆のおそろしさを改めて感じました。

二つ目は、被爆者の山田さんの話を聞いた事です。私は「けがをしていないのに死んでいく」という事を聞きました。その後、山田さんの説明で放射線の影響という事が分かりました。私はせ、かく生き残ったのに、放射線というのでまた苦しめるの？と思いました。

又、私は「生活が変化した事」の話も印象に残っています。若い男性まで戦争に行った事、女学生が工場で強制的に働かされた事におどろきました。もし私が女学生の立場だ、たら、強制的に働かされる事にいやな気持ちになります。

三つ目は、青少年ピースフォーラムです。青少年ピースフォーラム一日目で印象に残っているのは戦時中の疑似体験をした事です。自分の大切なものや人、場所などを書いた紙が一段階ごとに無くなって行って、最終的には何も無くなってしまいました。その時、紙を捨てるたびに胸が苦しくなりました。私は昔の人たちは、こんなにも苦しい生活を送っていたんだなと思いました。又、この体験を学校でも実施し、この苦しみを知ってほしいです。青少年ピースフォーラム二日目では、意見交換を行いました。私の班では、クニカの原因や解決方法について考えました。原因では『相手の事を考えていないから』や『自

分の方が正しいと思っ、ているから』などの意見があかりました。解決方法では、『相手ときちんと話す事が大切』という意見が多かったです。そこで、たくさんの人たちと話し合う事で、自分自身の平和に対する関心がより一層深まったと思います。

被爆者の平均年齢は84歳を上回りました。私達が最後の世代として戦争の苦しさを世界中の人々に伝えていきたいと思います。

平和とはなにか

牧野原中学校 3年

岩田 大和

僕は、今回の第13回「平和大使長崎派遣」に参加し、長崎での四日間の平和学習を終えて、平和とはどれほど美しいものなのか。戦争、原爆とはどれほどおそろしいものなのか。これらのことについて改めて考えさせられる長崎派遣となりました。その中で、最も印象に残ったことは2つあります。

1つ目は、青少年ピースフォーラムの際の被爆者の山田さんの話です。山田さんの話の中で一番印象に残っている言葉は、「戦争は絶対にしてはいけない、一つの兵器でたくさん人の尊い命が一瞬にして消えてしまった。人間が作ったものが、人間の尊い命を亡くす、なんて恐ろしいことだったか」この言葉が、自分の体、心にすごくしみこみました。これは、被爆を経験している人からの若い人たちへのメッセージだと感じました。そのメッ

セージとは、ただ一つ「戦争は絶対にしては
いけない」この言葉、一つだと思っております。

そして二つ目は、2022年8月9日午前
10時30分被爆長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式
典で感じたことです。新型コロナウイルス感
染予防の人数制限により惜しくも式典に出席
することはできませんでしたが、平和公園近
くの出島メッセ長崎という第二会場で式典の
様子を見ていました。最初は、被爆者の方々
だけで平和への思いを告げる被爆者合唱「も
う二度と」この歌には、「もう二度と作らな
いで、わたしたち被爆者を」と言、た私たちが
若い世代に告げた平和への思い、そしてそれ
を一生懸命に歌を歌い伝えていた被爆者の方
々を見ていたと、心の底から言葉にできな
い感情があふれ、自然に心が動かされ、平和
への思いがすごく伝わってきました。そして、
この式典に向けての準備などを長崎市の小学
生、高校生が積極的にやり、そして、しかも式
典の司会進行は、長崎市の海星高校の三年生

がやって来た。このことにものすごく地元愛
が伝わり、「平和」を長崎から発信した。と
言う思いがものすごく伝わってきた。式典の
始まる前、式典中でのこれらのことに僕はと
ても感動しました。この人たちの思い、願
いに応え、自分自身、全国民、全世界の人た
ちが「平和」について興味、関心を持ち、一
人でも多くの人々が平和活動に積極的に参
加することで、少しずつですが、「平和」に
近づけていけると僕は考えます。最後に
みなさんが考える「平和」とは、どの
ようなものですか。

僕が考える「平和」は世界の課題だと思
います。これから世界がどう変わるかによ
り、「平和」の道は変わると僕は考えます。
「自分から積極的に平和活動へ」僕はこ
れを訴えます。

未来と平和をつなぐ

河原塚中学校 2年

依田千尋

私はこの夏、平和大使として長崎へ行き普段できないような貴重な体験をしました。

平和案内人の方によるガイドのもと、

爆心地、爆心地から500メートルほど離れた城山国民学校(小学校)、そして平和公園などを訪れました。また、全国から集まった学生たちと青少年ピースフォーラムに参加し、互いに戦争そして平和についての意見交換を行い、被爆77周年長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典に参列しました。

1945年、今から77年前の8月9日午前11時02分、長崎の上空で人類史上2発目の原子爆弾がさく裂しました。強裂な熱線、爆風、膨大な放射線が長崎の街を一瞬にして覆いました。原爆には、ウラン型原爆リトルボーイとプルトニウム型原爆ファットマンの2種類がありますが、長崎にはプルトニウム型原爆ファッ

トマンが投下されました。中心温度は数百万度にもなり表面温度は約3000度から約4000度、1km離れていても約1800度もあります。わかりやすく例を挙げると太陽の表面温度は約5700度、鉄が溶ける温度は約1500度です。原子爆弾は核分裂が起きるときに発生するとても高いエネルギーを利用して兵器としたものです。この恐ろしい兵器は長崎の人々の大切な人、家や学校、街、夢まですべてを一瞬にして破壊してしまいました。

私の印象に強く残った体験を一つ話したいと思います。青少年ピースフォーラムにて戦争の疑似体験をしました。始めに自分の大切な人、物、場所を紙に書きました。戦争が進むにつれ、20歳から40歳までの成人男性が徴兵されてしまったり、空襲により学校や公共施設がなくなったり、最後には原子爆弾が落とされ大切な家族、家、ペットも失ってしまい最終的に自分の手元には何も残らず、すべてなくなってしまうました。想像しただけでも

苦しくなりました。

どうしたら世界から核兵器をなくすことができるか、平和を守り続けることができるか。ほかの学生たちと意見交換をしながら戦争について深く考えることができました。

平和大使として長崎に滞在していた4日間、改めて戦争の悲惨さ、平和の尊さを学ぶことができました。

時が経ち、戦後77年目を迎えています。

長崎の街はすっかりと復興され、美しい風景がみられました。しかし、あの時、被爆者の方々の身体と心が傷つけられたという事実はなくなりません。この先ず、と世界の歴史として残ります。私たち平和大使はその事実をきちんと後世に伝えていかななくてはなりません。

現在、ロシアによるウクライナ侵攻が進み、世界に緊張が走っています。アークン大統領は核兵器使用の可能性を示唆しており、油断できる状況ではありません。第二の核被爆国

をつくらないためにも、みんなで力を合わせて何としてでも止めなければなりません。被爆者の方々は平均年齢が85歳と高齢になりました。それでも今なお「長崎を最後の被爆地に」と訴えかけています。被爆者の方々の話を直接聞けるのも私たちの世代が最後です。次またどこかで核兵器が使われてしまうと長崎は最後の被爆地ではなくなってしまう。被爆者の方々の強い思いを途切れさせることなく、この先の未来まで戦争の恐ろしさ、平和の尊さを繋いでいかなくてはなりません。平和の原点は「ひとの痛みが分かる心を持つこと」です。

今、この瞬間も多くの人々が戦争で傷ついている事実に向き合うことが核兵器のない平和な未来を創る第一歩です。

最後に、私は松戸市平和大使の使命として、一生を通して出来るだけ多くの人に平和を呼掛けていきます。

当たり前が続くように

河原塚中学校 3年

武 菜 友 花

私はこの派遣に参加して、戦争や原爆、平和という言葉に意識が向くようになりました。二回のオリエンテーションと四日間の派遣を通して、学校で習うだけでは知らなかつた戦争の怖さや平和の大切さを学ぶことができました。この報告書でそれが少しでも伝えたいなと思います。

長崎に着いて私が最初に思ったことは「原爆が落ちたとは思えない」です。それぐらい今は穏やかで素敵なところでした。しかし、1945年8月9日、長崎に落とされた。一つの原爆は約7万4千人の命を奪いました。重軽傷者の人でも器材や薬品、人手の不足により、満足な治療を受けることができませんでした。爆風で破壊された町には黒こげになった人や皮膚が焼けた人が、地獄より恐ろしい光景が広がっていました。また、

原爆が落ちた後も放射線の影響で苦しんでいる人がいます。私は被爆者の方のお話を聞き、資料を見る中で耳や目を塞ぎたくなることが多々ありました。特に原爆資料館で見た全身の皮膚がはがれた子供の写真は原爆の恐ろしさを物語っていました。

私は今まで戦争をしたらどうなるかを考えたことがありませんでした。でも、青少年ピースフォーラムで被爆体験をしたとき、自分の大切なものがなくなっていくのが辛く、胸が痛みました。その時に気づいたことがあります。それは、戦争が起きたら大切な人が誰かを殺すかもしれないということです。今まで戦争は大切な人が殺されちゃうというイメージでしたが、見方が180度変わった気がします。でも、やはり戦争は失うものしかないと思いました。また、世界には平和を保つためと言って核兵器を持つ国があります。しかし、それでは本当の平和は一生訪れないと思います。核兵器を持たなくとも争いの起

こゝない世界、それが本当の平和だと思ひます。

今の日本は戦争のない、平和が当たり前と思へる国です。しかし、そうではありません。世界では今も争いが起こつてゐます。また、戦争は誰も幸せになりません。だからといつて戦争について考えず、過去を忘れてゐる理由にはなりません。当たり前が続くためにも戦争と向き合うことが大切だと思ひます。そして、一人一人が「戦争は絶対に起こしてはいけない」という気持ちを持つ必要があると思ひます。

私は今まで何も考えずに平和な日々を過ごしてゐました。でも、この派遣でそれは当たり前が続くものではないことを学びました。これからは、それを周りの人にも伝えていきたいと思ひます。

長崎派遣を覚えて

金ヶ作中学校 3年

岡田 隼

僕は、平和大使として長崎に訪れました。

8月7日は松戸から長崎に移動しました。

8月8日の午前ガイドの方に原爆の被害を受けた場所や、平和公園を案内してもらいました。午後は原爆資料館を見学したり、青少年ピースフォーラムに参加しました。8月9日は平和祈念式典に参列したり、二日目青少年ピースフォーラムに参加しました。8月10日は長崎から松戸に帰還し、帰片報告会を行いました。

僕が長崎に行く前は、8月9日に原爆が落ちて長崎の人々が被害を受けたことは知っていました。しかし、あの日あの時あの場所では何が起こったのか、そこにいた人達はどうか、たのかなどを鮮明にイメージすることは出来ませんでした。教科書に書いてある程度の知識しかないもので当たり前ですか。し

かし、平和大使として長崎に行き、被爆者の体験談を直接聞いたり、原爆資料館で炭化した遺体や、放射線の影響で髪が抜けた子供を見てきた今なら77年前に長崎で起きた地獄もありありと想像出来ます。世界には12,720発もの核兵器が存在します。そのうちの一つでも、人間が生活を営む場所に落とせば、またあの地獄の光景が広がってしまうのです。考えただけでも戦慄が走ります。

これから日本が唯一の被爆国として、国際社会の核兵器根絶の取り組みをリードしていくためにも、まずは日本が再び戦争に関与しないことが大切だと思います。国民一人ひとりが、かりと情報を集め、自分で考えることをやめなければ簡単に戦争が起こるような状況にはならないはずです。政治や国際情勢に対する無知や無関心の空気感は、太平洋戦争の直前にも漂っていたそうです。だから面倒臭いとか難しいなどの言葉で逃げずに、自分で調べる必要があるはずです。それが出

来れば、世界から核兵器と無くすための大きな一歩となるでしょう。

平和大使として学んだこと

金ヶ作中学校 1年

山岡 友梨子

私は、平和大使長崎派遣での四日間を通して、貴重な体験をさせていただいたり、学んだことが多くありました。

二日目の、平和案内人の方による被爆建造物ガイドでは、原爆の被害の大きさを、当時の絵などを見ながら話を聞いたり、城山小学校で、お水だけの児童や先生がとくな、たのかぜ、原爆投下後は服はボロボロで裸足のまま登校し、寒さにたえるために様々な工夫をしていたことを知りました。また、青少年ピースフォーラムでは、被爆者の方が被爆した当時のことを語って下さいました。そもそも原爆とは何か、今まで約7,800ヶ(90回分)もの原爆が実験に使われたり、実際に落とされたことなどを説明していただきました。戦時中は、「欲しがりません勝つまでは、ぜいたくは敵だ」というスローガンのもと、戦

争に対して反感を抱かず、進んで参加するように教育されてしまった「軍国少年」。いつ空襲がきても一時避難ができるように「退避訓練」（目と耳を押さえてうつ伏せになる）を行ったりしていたこと、熱線によって溶けてはがれた皮ふがうでにくっついて着物を着たようになっている人、目がうつろで、ほとんど意識がないまま歩いている様な人が爆心地から反対方向に向かっ、て一列になっ、ていたり、水を求めて川にたどりつき、そのまませくなっ、てしまっ、た人下河原が埋まっ、ていたことなど、当時の話を聞くだけで原爆が投下された直後の長崎は、地獄のような状況だ、たことがわかりました。

三日目の平和祈念式典では、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館に保管されている被爆当時の状況が記された本の読み聞かせを行っ、ている方の話や、被爆者代表の方の「平和への誓い」や長崎市長による「長崎平和宣言」、被爆者による合唱団の「もう二度と」や城山

小学校の「あの子」、被爆50周年記念歌
「千羽鶴」の三つの曲の合唱を聞くなど、被爆
した方や長崎に住んでいる人の思いを間近で
知ることができ、一生に一度の経験になりました。
また、ピースフォーラムの意見交換会
では、戦争はなぜ起きるのか、起こさないた
めにはどうしたらいいのかを考え、班の中で
共有しました。そこで、自分の弱さを知ること
や、周りを尊重することが平和につながる
と思いました。

8月7日～10日の四日間、平和資料館
を見学し、当時の話を聞いて、原爆は多くの
命を奪っただけでなく、生き延びた人々の心
と体にも影響を与えたこと、長崎がなぜ核兵
器廃絶を訴えるのか、また、無くすためにど
んなことをしているのかを、知ることができ
ました。

広島が最初の被爆地になっ、てしま、たこと
は変えられなくても、長崎を最後の被爆地に
することは、たとえ私たち一人ひとりの力は

微力だとしても、たくさん集まれば可能だと
私は思います。なので私は、「長崎を最後の
被爆地に」という言葉を周りの人に伝え、自
分が話を聞いたり、資料を見たりして感じた
おそろしさを現実のものにしないように、行
動していきたいと思います。

平和な未来、今の私たちにできること

和名ヶ谷中学校 2年

藤原 穂華

私は、8月7日～10日にかけて長崎へ平和大使として行ってきました。そこで、原爆の恐ろしさや悲惨さ、平和の尊さについてたくさん学びました。4日間で感じたことや思ったこと、平和な未来を築いていくために今の私たちにはなにが出来るかについて考えました。そのことをまとめていきます。

まず初めに、平和案内人による被爆建造物ガイドをしてもらいました。原爆落下中心地、城山小学校、平和公園という順番で行きました。原爆が落ちた時の中心地は、300～400度もあったそうです。また、中心地から1km以内でも100度はありました。当時、原爆が落とされた時、城山小学校にいた児童の数は150人でした。その内約140人の児童が亡くなってしまったそうです。建物は鉄だが、たので残っていました。今の学生は、「学校めんどくさい」や

「行くのたるい」と思っている人がたくさんいると思います。ですが、昔は、「友達に会いたい」「学校行って話したい」と思っている人がほとんどだったそうです。会いたくても会えない、行きたくても行けない人たちがたくさんでした。大切な人がこの原爆の一瞬でもう会えなくなりました。そう考えると、とても心が痛くなりました。また、ガイドさんの言葉で一番印象に残っている言葉があります。それは、「原爆が落とされた時の風の速さは、陸上競技場1周1秒程度」という言葉です。もちろん家なども飛ばされてしまいます。

その日の午後に、原爆資料館を見学したり被爆体験講話を聞いたりしました。原爆資料館では、当時落とされた原爆や、戦時中の物が置いてありました。焼かれてしまったり人やケガをしている方たちの写真や映像も見ました。被爆体験講話では、戦争はどのように始まったのか流れを聞いたり、原爆についてのよう

な被害を受けたのかなどを聞きました。長崎に原爆が落とされたのは、1945年の8月9日の11時2分です。本当は、福岡に落とす予定だったのですが、天候が悪か、たため、長崎に落としたりらしいです。長崎に落とした理由は、他と比べて、空襲が少なか、たからです。空襲がきたときの訓練もやりました。やり方はまず伏せて、親指で耳を押さえます。その後、他の指で目をおさえます。これで自分を守ります。最後に、戦争疑似体験で、この世界には、核兵器がいくつあるのかを、ヒューヒューの音で表してくれました。その数は120発で、思ってたよりも多く、びっくりしました。この世には、こんなにも人を苦しめる物があるんだなと思いました。

次の日、8月9日に式典をやりました。私は、出島Xマッセで参加しました。式典が始まる前に、花を添えました。式典が始まると、歌を聴いたり、市長や、他の国の方からのお話も聞きました。私が一番心に残っている曲

があります。「被爆者の歌」という曲です。
この曲は、実際に被爆を体験された方々から思
いを込めて歌っています。歌詞がすごく心に
刺さりました。11時2分、原爆が落とされた
時間、黙祷をしました。戦争で亡くなられた
方へ、しっかりと感謝の意を表しました。

その日の午後、青少年ピースフォーラムと
いうのに参加しました。他の県や、他の市の
人たちとグループになって、「戦争が起ころ
原因」、「戦争をなくすためには」、「戦争
のない未来にするために、今の自分にはなに
ができるのか」について、自分で考え、グル
ープの人と共有し合いました。戦争が起ころ
原因は、意見のすれ違い。戦争をなくすため
には、お互いを尊重し合う。今の自分にでき
る事は、自分の中で、平等・不平等をなくし、
話し合う際には、相手の意見を取り入れ、尊
重する。私は、このように考えました。

四日間の長旅が終わり、松戸に帰ってきて
帰庁報告会を行いました。私も1番伝えたい

ことは、「もう戦争なんてしてはいけなし、おこしてはいけなし」ということです。この四日間で、戦時中の様子がよくわかりました。その様子を見て、「長崎を最後の被爆地に」という言葉を守っていきたいと思いました。自分か少しでもできること、周りにいる友人や家族に、今回学んだ戦争の恐ろしさや悲惨さ、平和の尊さを伝えることです。少しの間でしたが、戦争の事について深く考えたり、自分の事も見つめ直せたので、よかったです。とても貴重な経験になりました。

平和の尊さと原爆や戦争の恐ろしさ

専修大学松戸中学校 1年

佐藤 一翔

僕は、今回の平和大使長崎派遣で、直接平和祈念式典に参加させて頂くことができました。式典は、岸田内閣総理をはじめとする国務大臣や各国の指導者の来賓の方々も参列し、盛大に行われました。

『8月9日』は、長崎の人々にとって特別な日です。今から77年前の晴れた日、1945年8月9日11時2分、1つの原子爆弾が現在の平和公園原爆落下中心地碑上空高度9,600メートル地点で投下されました。それは、多くの人々の家や家族、友達などの大切な物、当たり前な日常、人生と生命を残酷に、無残な姿にして奪いました。

長崎の被爆者の方に、

「我々若者に一番訴えたいことは何ですか。」と聞くと、

「それはもう、絶対に戦争を起こしてはいけ

ないという事です！」

と答えます。

平和祈念式典ではそのメッセージを、被爆者、御遺族、長崎市長、首相や大臣の方々、学生が、歌にのせて、演説をして力強く世界に訴えていました。平和の象徴である九鳥が一斉に飛翔していく姿を見た時は感動しました。

また、青少年ピースフォーラムでは、資料館や祈念館の見学を他県から長崎に派遣された大使と共にしました。また、被爆者のお話を生で聞いたり、五感を働かせた活動をしたり、他県の大使と話し合っ て『平和』について考えました。

原爆は、熱線・爆風・放射線の3つの働きがあることや、原爆の仕組み、そして原爆が落とされた政治的理由などの知識はもちろん、実際の写真や遺物を見て、原爆がいかに恐ろしいかを知りました。そして資料館には千羽鶴を献納し、平和への思いをたくすことができました。

また、全国の大使と交流することにより、様々な考え方が新しく学べて、すごく視野が広がりました。

長旅でした。僕は初めて九州に行きました。旅の途中では、たくさん写真を撮り、おいしい物を食べながら友達と楽しく話しました。これがどれだけ幸せだ、たろでしょう。現地の被爆者の話や遺物からうかがえる当時の惨状と、今の我々の生活はまるで違います。平和とは、『当たり前前の生活がおくれる事』だと思いました。

戦争は、絶対に起こしてはいけません。でも、現在世界に存在する核弾頭数は、12,720発以上あると言われています。ウクライナとロシアでは、戦争が起こり、多くの命が奪われています。被爆者の方々の高齢化が進んでいます。我々にできることは何でしょうか。それは、平和について、戦争の恐ろしさについて知り、語り継ぐ事です。国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館には、被爆して七く

なられた方々 192, 310 名の名簿が、蔵
がな常囲気て、しっかりと納められています。
彼らの死を無駄にしてはいけません。

現地で見た、熱線の被害で焼けこげた浦上
天主堂のヨハネ像は、我々に何かを語りかけ
ている様でした。

長崎を最後の被爆地にするために、もうこ
れ以上戦争犠牲者を出さないために、当たり
前の日常を守るために、原爆、戦争の悲惨さ
を語りついでいくべきだと思います。

派遣後の活動について

※学校から提供いただいた資料の一部を載せています

・発表



栗ヶ沢中学校 山口 侑馬

令和4年9月1日（木）2学期始業式に全校放送にて発表



第二中学校 松本 大和

令和4年9月1日（木）2学期始業式後にオンラインで全校発表



金ヶ作中学校 岡田 隼、山岡 友梨子

令和4年9月27日（火）活動報告会にて発表



河原塚中学校 武 茉友花、依田 千尋
 令和4年10月14日（金）報告会にて発表



小金中学校 國崎 美和子、福井 健人
 令和4年10月28日（金）^{しゅうがさい}秋芽祭文化発表の部にて発表



第三中学校 高橋 拓実
 令和4年11月10日（木）全校放送にて発表

新聞記事

戦争の悲惨さを「伝えたい」

長崎訪問の中学生大使
松戸 帰庁報告

松戸市の平和大使長崎派遣事業で、市内の中学生20人が8月7日から10日まで長崎市を訪れ、青少年ピースフォーラムなどに参加し



本郷谷健次市長（前列中央）に報告した中学生の平和大使

た。10日に帰庁報告会が行われ、本郷谷健次市長に被災地で学んだことや感じたことを一人ずつ報告した。同事業は2008年度に

始まり、コロナ禍による中断後、今回が3年ぶり13回目。18校43人から応募があり、男子8人、女子12人が平和大使として派遣された。現地では、被爆建造物や原爆資料館などを見学し、戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを学んだ。77回目の原爆の日を迎えた9日には、平和祈念式典に参列。犠牲者の冥福と世界の恒久平和を祈り、黙とうを捧げた。中学生平和大使のメンバーが参加した青少年ピースフォーラムは、全国の同世代の人たちが原爆の日に集い、平和学習などを通して、平和に対する理解を深めていこうというもの。河原塚中学校2年の依田千尋さんは、「原爆の恐ろしさ、命の尊さを被爆者の方から直接学ぶことができ最後の世代として、長崎を最後の被爆地にできるように、戦争の悲惨さをたくさんの人に伝えていきたい」と決意を語った。

朝日れすか PLUS 2022年9月20日号掲載

平和の尊さを 多くの人に伝えたい

松戸市で「平和の集い」開催



長崎に派遣された中学生の平和大使による報告

松戸市主催「平和の集い」が11月27日、松戸市民劇場で行われ、平和大使を務めた中学生と小学生親子の報告があった。松戸市は1985年3月恒久平和の達成を願い「世界平和都市宣言」を行って以来、これまで様々な取り組みを展開してきた。今年で15回目の「平和の集い」は、今まさに緊張状態を続ける世界情勢を考慮し、核兵器の廃絶と世界の恒久平和を強く願って、戦争の悲惨さを風化させることなく平和の尊さを共有しようと呼びかけられた。第1部は今夏、松戸市平和大使として長崎に派遣された中学生のうち17人、広島に派遣された小学生親子5組10人による発表があり、被爆地への派遣を通じて実感したこと、学んだことが報告された。「長崎を訪れて戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさを感じた。戦争で命を落とした方々や被爆者の思いを無駄にしないため今回見たこと聞いたこと、平和の尊さをたくさんの人に伝えたい」「遠い土地での昔の出来事と感じていたが、展示や施設で見聞きするうちに戦争が続くかぎり松戸で暮らす私たちも核の脅威にさらされていることを知った」など、平和を願

う強い思いが述べられた。第2部は、松戸で暮らす世界各國出身の人たちと平和について考える「国際平和イベント ピースセッション」があり、異なる文化を有する人々と相互理解を深めるための活動報告も。第3部は、世界中をめぐる医療支援活動が続けるNPO法人「地球のステーション」代表理事の桑山紀彦さんが登壇。自らも東日本大震災で被災した経験を持つ現役の医師で、紛争・災害・貧困の地で生きる人々との交流を歌と語りと実際の映像を交えたコンサート形式で熱く伝えた。平和大使の保護者として来場していた武田充史さんは、「以前の娘はニュース番組を見てみただけだったが、長崎から戻ってからはニュースの内容に対する見方が変わったように思う。見てきたこといろいろと話してくるので親としても影響を受けています」と話した。今こそ、悲惨な戦争体験を風化させず、みんなで平和の尊さを語り合おう。



親子で広島に派遣された小学生の平和大使による報告

朝日れすか PLUS 2022年12月20日号掲載

長崎平和宣言

以下、令和4年8月9日 被爆77周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典式次第から抜粋

長崎平和宣言

核兵器廃絶を目指す原水爆禁止世界大会が初めて長崎で開かれたのは1956年。このまちに15万人もの死傷者をもたらした原子爆弾の投下から11年後のことです。

被爆者の渡辺千恵子さんが会場に入ると、カメラマンたちが一斉にフラッシュを焚きました。学徒動員先の工場で16歳の時に被爆し、崩れ落ちた鉄骨の下敷きになって以来、下半身不随の渡辺さんがお母さんに抱きかかえられて入ってきたからです。すると、会場から「写真に撮るのはやめろ！」「見世物じゃないぞ！」という声が発せられ、その場は騒然となりました。

その後、演壇に上がった渡辺さんは、澄んだ声でこう言いました。

「世界の皆さん、どうぞ私を写してください。そして、二度と私をつくらないでください」。

核保有国のリーダーの皆さん。この言葉に込められた魂の叫びが聴こえますか。「どんなことがあっても、核兵器を使ってはならない！」と全身全霊で訴える叫びが。

今年1月、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有5か国首脳は「核戦争に勝者はいない。決して戦ってはならない」という共同声明を世界に発信しました。しかし、その翌月にはロシアがウクライナに侵攻。核兵器による威嚇を行い、世界に戦慄を走らせました。

この出来事は、核兵器の使用が“杞憂”ではなく“今ここにある危機”であることを世界に示しました。世界に核兵器がある限り、人間の誤った判断や、機械の誤作動、テロ行為などによって核兵器が使われてしまうリスクに、私たち人類は常に直面しているという現実を突き付けたのです。

核兵器によって国を守ろうという考え方の下で、核兵器に依存する国が増え、世界はますます危険になっています。持っていて使われることはないだろうというのは、幻想であり期待に過ぎません。「存在する限りは使われる」。核兵器をなくすことが、地球と人類の未来を守るための唯一の現実的な道だということを、今こそ私たちは認識しなければなりません。

今年、核兵器をなくすための2つの重要な会議が続きます。

6月にウィーンで開かれた核兵器禁止条約の第1回締約国会議では、条約に反対の立場のオブザーバー国も含めた率直で冷静な議論が行われ、核兵器のない世界実現への強い意志を示すウィーン宣言と具体的な行動計画が採択されました。また、核兵器禁止条約と核不拡散条約（NPT）は互いに補完するものと明確に再確認されました。

そして今、ニューヨークの国連本部では、NPT再検討会議が開かれています。この50年余り、NPTは、核兵器を持つ国が増えることを防ぎ、核軍縮を進める条約として、大きな期待と役割を担ってきました。しかし条約や会議で決めたことが実行されず、NPT体制そのものへの信頼が大きく揺らいでいます。

核保有国はこの条約によって特別な責任を負っています。ウクライナを巡る対立を乗り越えて、NPTの中で約束してきたことを再確認し、核軍縮の具体的プロセスを示すことを求めます。

日本政府と国会議員に訴えます。

「戦争をしない」と決意した憲法を持つ国として、国際社会の中で、平時からの平和外交を展開するリーダーシップを発揮してください。

非核三原則を持つ国として、「核共有」など核への依存を強める方向ではなく、「北東アジア非核兵器地帯」構想のように核に頼らない方向へ進む議論をこそ、先導してください。

そして唯一の戦争被爆国として、核兵器禁止条約に署名、批准し、核兵器のない世界を実現する推進力となることを求めます。

世界の皆さん。戦争の現実がテレビやソーシャルメディアを通じて、毎日、目に耳に入ってきます。戦火の下で、多くの人の日常が、いのちが奪われています。広島で、長崎で原子爆弾が使われたのも、戦争があったからでした。戦争はいつも私たち市民社会に暮らす人間を苦しめます。だからこそ、私たち自らが「戦争はダメだ」と声を上げることが大事です。

私たちの市民社会は、戦争の温床にも、平和の礎にもなり得ます。不信感を広め、恐怖心をあおり、暴力で解決しようとする“戦争の文化”ではなく、信頼を広め、他者を尊重し、話し合いで解決しようとする“平和の文化”を、市民社会の中にたゆむことなく根づかせていきましょう。高校生平和大使たちの合言葉「微力だけど無力じゃない」を、平和を求める私たち一人ひとりの合言葉にしていましょう。

長崎は、若い世代とも力を合わせて、“平和の文化”を育む活動に挑戦していきます。

被爆者の平均年齢は84歳を超えました。日本政府には、被爆者援護のさらなる充実と被爆体験者の救済を急ぐよう求めます。

原子爆弾により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表します。

長崎は広島、沖縄、そして放射能の被害を受けた福島とつながり、平和を築く力になろうとする世界の人々との連帯を広げながら、「長崎を最後の被爆地に」の思いのもと、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に力を尽くし続けることをここに宣言します。

2022年（令和4年）8月9日

長崎市長 田上富久

以下、長崎平和宣言（ことばの解説）から抜粋

1. 原水爆禁止世界大会

1954（昭和29）年3月1日、アメリカが太平洋ビキニ環礁で行った水爆実験をきっかけに、核兵器の廃絶を求める原水爆禁止の署名運動が全国各地でおこりました。こうした原水爆禁止を求める大きな国民の声を背景に、1955（昭和30）年8月、広島で第1回原水爆禁止世界大会が、翌56（昭和31）年には、長崎で第2回世界大会が開かれました。以来、世界の人々と連帯して毎年開催されています。

2. 渡辺 千恵子

1945（昭和20）年16歳の時、学徒動員として爆心地から約2.5kmの工場（三菱電機㈱長崎製作所）で働いている時に被爆し、崩れた建物の下敷きになって下半身不随になりました。1955（昭和30）年に被爆者団体「長崎原爆乙女の会（現：長崎原爆青年乙女の会）」の結成に参加。以後、平和活動に携わり国内外で核兵器廃絶を訴え、生涯をその活動に捧げました。

作家としても活動し、著書に「長崎に生きる―“原爆乙女”渡辺千恵子の歩み」「長崎に燃えよ、オリンポスの火―車いすの平和の旅」などがあります。1993（平成5）年3月死去。

3. 存在する限りは使われる

長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）と核兵器廃絶長崎連絡協議会（PCU-NC）が共同で毎年発行している「世界の核弾頭データ」に関するポスターに使われているキャッチフレーズ。ポスターでは、世界には未だ1万3千発近くの核弾頭が存在する現状を、保有国別・種類別に、分かりやすく図示しています。

8月の広島・長崎の原爆忌に向けた平和教育

に役立てられるように、毎年6月に最新情報に更新して発表されています。ポスターは、2013（平成25）年から制作されており、県内の小・中学校、高校、大学などに配布するとともに、同センターのホームページに解説資料を掲載しています。

4. 核兵器禁止条約

核兵器は一旦使用されれば、取返しのつかない甚大な被害を人間や環境に与えます。それは戦争での使用だけでなく、核兵器が存在する限り、誤って使われたり、テロなどに使われたりする危険性があります。核不拡散条約（NPT：6で解説）で約束された核軍縮が進まない状況に不満を持つ国々の間で、核兵器を法的に禁止しようとする動きが、2010（平成22）年頃から高まりました。

そのような核兵器を持たない国々の主導のもと、三度にわたる核兵器の非人道性を考える国際会議の開催などを経て、2017（平成29）年7月、国連加盟国の6割を超える122か国・地域が賛成し、核兵器禁止条約が採択されました。

条約の前文には、被爆者の苦しみと被害を深く心に留めるとあります。被爆者の「私たちの経験を、もう、誰にもさせたくない」という願いを、国際社会がしっかりと受けとめました。

しかし、採択されただけでは、条約は力を持ちません。本当に力を持つためには、それぞれの国の議会等が国内法にしたがって条約を認め、締結する意志を最終的に決定しなければなりません。これを「批准」といいます。

2020（令和2）年10月24日、批准した国が発効要件の50か国に達し、その90日後の2021（令和3）年1月22日に条約は発効しました。

5. 第1回締約国会議

核兵器禁止条約では、発効から1年以内に第1回締約国会議が開かれることになっていましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2022（令和4）年6月に延期して、ウィーンで開催されました。

この会議には、条約に批准した国に加え、条約に参加していない国もオブザーバーとして参加し、3日間にわたり、合わせて80か国以上が議論を行いました。

最終日に、核兵器のない世界の実現を国際社会に呼びかけるウィーン宣言と、条約の履行に向けた具体的な取組みを盛り込んだ行動計画が採択されました。

6. 核不拡散条約（NPT）

核不拡散条約（NPT）は、核保有国が増える（核が拡散する）ことを防ぐ目的でつくられた条約で、1970（昭和45）年に発効しました。2003（平成15）年1月に一方的に脱退を表明している北朝鮮も含めると、現在の国連加盟国の中で、インド、パキスタン、イスラエル、南スーダンの4か国を除く191か国・地域が加入しています。

主な内容は、以下の3つです。

(1) 「核不拡散」

当時、すでに核兵器を保有していたアメリカ・ロシア（旧ソビエト）・イギリス・フランス・中国の5か国（核兵器国）だけに核兵器の保有を認め、それ以外の国（非核兵器国）が保有することを禁止しています。

(2) 「核軍縮」

5つの核兵器国には、保有する核兵器の全廃に向けて誠実に努力していくことが義務付けら

れています。

(3) 「原子力の平和的利用」

非核兵器国には、原子力の平和利用が認められており、原子力技術や核物質を使用する場合は、必ずそれが平和利用であるかどうかを確認するために、国際原子力機関（IAEA）の査察を受ける義務があります。

7. NPT再検討会議

核不拡散条約（NPT）では、条約が定める義務の履行状況を確認し、締約国の取組みを強化するため、5年毎に再検討会議と、その間に3回から4回の準備委員会が開催されます。

2015（平成27）年の再検討会議において、参加国の多くが核兵器の非人道性（一発で多くの人々を無差別に殺傷する核兵器を使用することは、人間として許されないこと）に言及し、核兵器禁止に向けた法的枠組みについての議論を速やかに開始すべきであると訴えました。

2020（令和2）年に予定されていた第10回目の再検討会議は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となっていましたが、2022（令和4）年8月1日から26日までニューヨークで開催されます。

8. 非核三原則

非核三原則とは、核兵器を「持たない」「つぐらない」「持ち込ませない」という戦争被爆国である日本政府の3つの原則のことです。

1967（昭和42）年12月、当時の佐藤栄作首相が国会で表明しました。

1971（昭和46）年11月の衆議院で沖縄返還に関連して、初めて国の方針として、国会の意思を決める決議が行われました。

9. 核共有

核保有国が保有している核兵器を同盟国に配備し、共同で運用する安全保障政策。第2次世界大戦後の東西冷戦時期には、ヨーロッパにアメリカの核兵器が多数配備されていました。現在でも、ヨーロッパではドイツなどの核兵器を持たない国に、アメリカの核兵器が配備されています。

ロシアによるウクライナ侵攻後、日本国内においても、核共有の議論を求める声が上がりました。

10. 北東アジア非核兵器地帯

地域の国々が条約を結び、核兵器の製造、実験、取得、保有などをしないと約束した地域のことを「非核兵器地帯」といいます。

条約によって核戦争の危機をなくし、国際的な緊張をやわらげることで、核兵器の役割を減らし、核保有国が核兵器を開発したり、保有したりする動機をなくしていくことにもつながります。

地球の南半球は、1967（昭和42）年のラテン・アメリカ核兵器禁止条約のほか4つの条約（南極条約、南太平洋非核地帯条約、アフリカ非核兵器地帯条約、東南アジア非核兵器条約）によりすでに陸地のほとんどが非核化されています。

北半球でも、1998（平成10）年にモンゴルの「非核地位」が国連で認められ、2009（平成21）年には中央アジア（ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス、トルクメニスタン、カザフスタン）非核兵器地帯条約が発効しています。

「北東アジア非核兵器地帯」とは、日本と韓国と北朝鮮の3か国を「非核兵器地帯」にしようとするものです。

条約が実効力を持つためには、3か国に核兵器が存在せず、近隣の核保有国（アメリカ、ロシア、中国）が、3か国を核兵器で攻撃しないと約束することが必要になります。

「朝鮮半島の完全な非核化」が明記された2018（平成30）年の米朝共同声明などを活かしつつ、地域国間の信頼醸成を図り、北東アジア全体の平和を実現するために日本政府が果たすべき役割は大きいといえます。

11. 市民社会

近年、貧困、人権、環境、軍縮といった地球規模の課題において、NGO（非政府組織）やNPO（非営利組織）、民間財団などの市民の組織が大きな役割を果たしており、こうした組織が公共を担う社会を「市民社会」といいます。

12. 平和の文化

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が提唱した平和を構築するための考え方のひとつです。その理念は、ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と明記されています。

世界には多様な文化や生活様式などがあります。こうした違いが分断を生み、それを力で解決する「戦争の文化」ではなく、相手の立場に立って話し合ったり交流したりしながら、お互いの理解を深め、信頼を築いていく「平和の文化」を育てることが大切です。

歴代平和大使名簿



～ 歴代平和大使名簿 ～

年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十年度 (二〇〇八年)	1	熊川 実旺	(第四中 2年)
	2	別宮 賢治	(第五中 2年)
	3	渡邊 ちさと	(六美中 3年)
	4	片野 結依	(小金南中 1年)
	5	清水 のどか	(古ヶ崎中 1年)
	6	藤井 彩乃	(新松戸南中 2年)
	7	清水 健人	(金ヶ作中 1年)
	8	神部 莉奈	(新松戸北中 2年)
	9	山本 拓実	(旭町中 3年)
	10	黒木 若葉	(聖徳大学附属中 1年)
平成二十一年度 (二〇〇九年)	1	川本 景介	(第一中 1年)
	2	鈴木 亜加里	(第二中 1年)
	3	小幡 祐太	(第三中 1年)
	4	山田 政明	(第四中 1年)
	5	清水 彬奈	(第五中 1年)
	6	久佐野 美奈子	(第六中 1年)
	7	増野 友梨奈	(小金中 2年)
	8	井山 陽菜	(常盤平中 2年)
	9	小林 美幸	(栗ヶ沢中 1年)
	10	熊川 大揮	(六美中 1年)
	11	高島 里夏	(牧野原中 3年)
	12	西 志穂	(河原塚中 3年)
	13	工藤 颯人	(根木内中 1年)
	14	四家 明宜	(金ヶ作中 1年)
	15	児島 一華	(和名ヶ谷中 1年)

年度	No.	氏名	学校名
平成二十二年 (二〇一〇年)	1	櫻井 和奏	(第一中 2年)
	2	吉田 彩乃	(第二中 1年)
	3	三橋 若奈	(第三中 1年)
	4	笹本 幸輝	(第四中 2年)
	5	比嘉 祐哉	(第五中 2年)
	6	後藤 奈穂美	(第六中 1年)
	7	神部 ちひろ	(小金中 2年)
	8	田中 萌加	(常盤平中 1年)
	9	高梨 望	(栗ヶ沢中 2年)
	10	岸田 穰士	(六美中 2年)
	11	大山 祭	(小金南中 1年)
	12	渡邊 誠嗣	(古ヶ崎中 2年)
	13	梶浦 美樹	(牧野原中 2年)
	14	斉藤 温人	(根木内中 1年)
	15	富永 由也	(河原塚中 1年)
	16	石井 拓海	(新松戸南中 2年)
	17	中川 剛志	(金ヶ作中 1年)
	18	向田 美紀子	(和名ヶ谷中 3年)
	19	山本 ありさ	(旭町中 2年)
	20	新倉 花菜	(小金北中 1年)
	21	田村 陽香	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	染谷 日向子	(専修大学松戸中 1年)

年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十三年 度(二〇二一年)	1	佐藤 萌加	(第一中 2年)
	2	発地 空介	(第三中 1年)
	3	岸 健太	(第四中 1年)
	4	宗像 未来	(第五中 1年)
	5	天野 七海	(第六中 1年)
	6	紙崎 莉緒	(小金中 2年)
	7	井山 祥樹	(常盤平中 2年)
	8	加藤 円来	(栗ヶ沢中 1年)
	9	鈴木 理花子	(六美中 3年)
	10	坂本 実優	(小金南中 1年)
	11	谷口 茉奈美	(古ヶ崎中 1年)
	12	對馬 あい子	(牧野原中 2年)
	13	山田 真平	(河原塚中 2年)
	14	新垣 峻太	(新松戸南中 3年)
	15	水谷 春来	(金ヶ作中 2年)
	16	長谷川 結友	(旭町中 3年)
	17	板倉 日向子	(小金北中 1年)
	18	張 敏	(聖徳大学附属女子中 2年)
	19	平野 瑞帆	(専修大学松戸中 2年)

年度	No.	氏名	学校名
平成二十四年 度(二〇二二年)	1	阿部 秀大	(第一中 2年)
	2	茂出来 美樹	(第二中 3年)
	3	小澤 美羅	(第三中 3年)
	4	笠原 卓斗	(第四中 1年)
	5	播磨 渚生	(第五中 3年)
	6	内海 渚	(第六中 1年)
	7	大津 みちる	(小金中 3年)
	8	小俣 さやか	(常盤平中 1年)
	9	佐藤 優海香	(常盤平中 1年)
	10	阿部 裕美	(六美中 1年)
	11	宮本 龍一	(小金南中 3年)
	12	樋口 杏	(古ヶ崎中 1年)
	13	高橋 あみ	(牧野原中 2年)
	14	遠藤 未羽	(根木内中 2年)
	15	後藤 陽	(河原塚中 1年)
	16	鈴木 里歩	(新松戸南中 2年)
	17	岩崎 いぶき	(和名ヶ谷中 1年)
	18	伊藤 梢	(和名ヶ谷中 3年)
	19	紀藤 颯斗	(旭町中 1年)
	20	川村 香奈美	(小金北中 1年)
	21	石井 そら	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	中山 皓一郎	(専修大学松戸中 1年)



年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十五年 度(二〇二三年)	1	藍原 由梨奈	(第一中 1年)
	2	河野 圭吾	(第二中 1年)
	3	福田 友郁	(第三中 2年)
	4	旗谷 幸亮	(第四中 1年)
	5	宮島 健吾	(第五中 3年)
	6	後藤 美菜	(第六中 3年)
	7	関川 美海	(小金中 2年)
	8	金澤 春樹	(小金中 1年)
	9	阿部 雅治	(常盤平中 3年)
	10	中澤 有稀	(栗ヶ沢中 2年)
	11	加藤 一紗	(六実中 1年)
	12	島田 悠	(小金南中 1年)
	13	大久保 愛深	(古ヶ崎中 1年)
	14	緑間 喜子	(古ヶ崎中 1年)
	15	毎熊 和正	(牧野原中 2年)
	16	猪瀬 柊斗	(牧野原中 1年)
	17	奥野 智朗	(河原塚中 3年)
	18	平野 茜	(新松戸南中 1年)
	19	下藤 誉司	(和名ヶ谷中 1年)
	20	新倉 拓真	(小金北中 1年)
	21	郡司 萌	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	星 さりあ	(専修大学松戸中 1年)

年度	No.	氏名	学校名
平成二十六年 度(二〇二四年)	1	布川 恭大	(第一中 2年)
	2	白井 悠生	(第二中 2年)
	3	松本 優樹	(第二中 2年)
	4	本間 宏明	(第三中 2年)
	5	旗谷 吏紗	(第四中 3年)
	6	宮島 加奈子	(第五中 1年)
	7	植田 聖杜	(第六中 2年)
	8	合田 健太郎	(小金中 2年)
	9	早崎 諒	(常盤平中 2年)
	10	小井土 瑠冴子	(栗ヶ沢中 1年)
	11	望月 優衣	(六実中 3年)
	12	片野 玲奈	(小金南中 1年)
	13	和田 晴人	(古ヶ崎中 2年)
	14	對馬 悠介	(牧野原中 2年)
	15	井手 麟太郎	(根木内中 2年)
	16	樋口 明日香	(河原塚中 1年)
	17	斎藤 龍秀	(新松戸南中 1年)
	18	久保田 美咲	(和名ヶ谷中 2年)
	19	紀藤 菜桜	(旭町中 1年)
	20	渡邊 龍	(小金北中 1年)
	21	野中 利悦	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	築田 真理子	(専修大学松戸中 3年)



年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十七年 度(二〇一五年)	1	服部 叶汰	(第一中 1年)
	2	瀬谷 恭平	(第二中 2年)
	3	長谷川 勇矢	(第三中 2年)
	4	朝生 蘭	(第四中 1年)
	5	田島 歩夢	(第四中 3年)
	6	佐藤 駿太	(第五中 1年)
	7	小林 優人	(第六中 2年)
	8	山下 優月	(第六中 2年)
	9	田崎 和	(常盤平中 1年)
	10	須藤 巧	(小金南中 1年)
	11	萩原 真央	(小金南中 1年)
	12	大久保 敦康	(古ヶ崎中 1年)
	13	倉重 はるか	(古ヶ崎中 2年)
	14	清水 智也	(牧野原中 2年)
	15	木村 史来	(牧野原中 1年)
	16	吉田 真帆	(河原塚中 1年)
	17	飯銅 千尋	(和名ヶ谷中 2年)
	18	井上 未来	(旭町中 2年)
	19	島岡 里帆	(小金北中 1年)
	20	藤井 友紀	(聖徳大学附属女子中 2年)
	21	山田 佳那	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	福島 有香	(専修大学松戸中 3年)

年度	No.	氏名	学校名
平成二十八年 度(二〇一六年)	1	梶原 望音	(第一中 1年)
	2	新井 しほり	(第二中 2年)
	3	山本 遥香	(第三中 2年)
	4	大住 春紀	(第四中 1年)
	5	埴 悠莉乃	(第五中 1年)
	6	三橋 世那	(第六中 1年)
	7	山崎 夏海	(小金中 2年)
	8	千葉 京香	(常盤平中 1年)
	9	須藤 未来	(小金南中 1年)
	10	坂本 聖	(小金南中 2年)
	11	相馬 結子	(古ヶ崎中 1年)
	12	中村 莉子	(古ヶ崎中 1年)
	13	水谷 寛樹	(牧野原中 1年)
	14	工藤 翼	(根木内中 1年)
	15	長田 結	(根木内中 2年)
	16	吉田 香凜	(河原塚中 1年)
	17	板橋 来美	(新松戸南中 1年)
	18	中川 和泉	(金ヶ作中 1年)
	19	本田 真樹	(和名ヶ谷中 2年)
	20	羽坂 美柚	(聖徳大学附属女子中 2年)
	21	白石 優美香	(専修大学松戸中 1年)
	22	星名 優歩	(専修大学松戸中 2年)

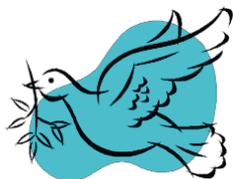


年度	No.	氏名	(学校名)
平成二十九年 度(二〇一七年)	1	高橋 聖奈	(第一中 2年)
	2	中木 源	(第二中 3年)
	3	見城 希音	(第三中 1年)
	4	角田 結菜	(第四中 1年)
	5	旗谷 優衣	(第四中 1年)
	6	伊藤 姫那	(第五中 1年)
	7	西田 翼	(第六中 1年)
	8	岡村 タイニー 美波	(小金中 1年)
	9	橋本 尚紀	(小金中 3年)
	10	小池 彩華	(常盤平中 2年)
	11	林 隆正	(栗ヶ沢中 1年)
	12	永野 礼華	(小金南中 2年)
	13	村田 和航	(古ヶ崎中 3年)
	14	榎田 朱里	(牧野原中 1年)
	15	北山 風香	(河原塚中 1年)
	16	スッティブン 凜	(河原塚中 1年)
	17	戸田 美智華	(新松戸南中 1年)
	18	田中 みなみ	(金ヶ作中 1年)
	19	佐藤 古都	(和名ヶ谷中 2年)
	20	松本 歌子	(和名ヶ谷中 2年)
	21	中村 葵	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	堀越 菜々	(専修大学松戸中 3年)

年度	No.	氏名	学校名
平成三十年 度(二〇一八年)	1	並木 康輔	(第一中 1年)
	2	藤井 拓真	(第二中 2年)
	3	織田 舞衣子	(第三中 1年)
	4	安藤 聡真	(第四中 2年)
	5	林田 唯雫	(第五中 2年)
	6	南畝 亜美	(第五中 3年)
	7	高橋 ヒカル	(第六中 2年)
	8	國崎 沙和子	(小金中 2年)
	9	犬尾 まり花	(常盤平中 1年)
	10	佐瀬 綾乃	(六実中 1年)
	11	堀本 大雅	(小金南中 1年)
	12	大木 悠広	(小金南中 3年)
	13	堀越 春生	(古ヶ崎中 1年)
	14	北原 早春香	(根木内中 1年)
	15	平 水音	(河原塚中 2年)
	16	藤田 隆良	(新松戸南中 2年)
	17	小山 杏奈	(金ヶ作中 1年)
	18	森田 和佳奈	(金ヶ作中 1年)
	19	飛田 美紅	(和名ヶ谷中 1年)
	20	島岡 凜	(小金北中 1年)
	21	富田 愛夢	(小金北中 3年)
	22	関野 七海	(専修大学松戸中 2年)



年度	No.	氏名	(学校名)
令和元年度 (二〇一九年)	1	藤井 星空	(第一中 3年)
	2	新井 はるの	(第二中 3年)
	3	小川 ひなた	(第三中 2年)
	4	小島 未来	(第四中 3年)
	5	福士 莉奈	(第五中 3年)
	6	齊藤 光咲	(第六中 1年)
	7	小林 大起	(小金中 2年)
	8	小川 新九朗	(栗ヶ沢中 1年)
	9	肥田 友稀	(六美中 1年)
	10	瀬川 千寛	(小金南中 3年)
	11	相馬 理子	(古ヶ崎中 1年)
	12	高橋 柚希乃	(古ヶ崎中 2年)
	13	猪瀬 響樹	(牧野原中 3年)
	14	澁谷 亜依	(根木内中 1年)
	15	蒔野 拓朗	(河原塚中 3年)
	16	佐藤 達弥	(新松戸南中 2年)
	17	清水 啓乃介	(金ヶ作中 1年)
	18	松本 虎太郎	(和名ヶ谷中 2年)
	19	小川 陽翔	(旭町中 1年)
	20	八木原 弓賀	(小金北中 2年)
	21	西川 叶美	(聖徳大学附属女子中 2年)
	22	江本 彩乃	(専修大学松戸中 1年)





令和4年度
親子平和大使広島派遣事業
平和大使長崎派遣事業
報告書

つむいでいこう
とわ
永遠までつづく

平和の糸

松戸市
総務部総務課

令和4年12月発行